

属性・介護予防サービス利用と
介護予防に係る各種指標の
推移との関連の分析について
(取りまとめ)

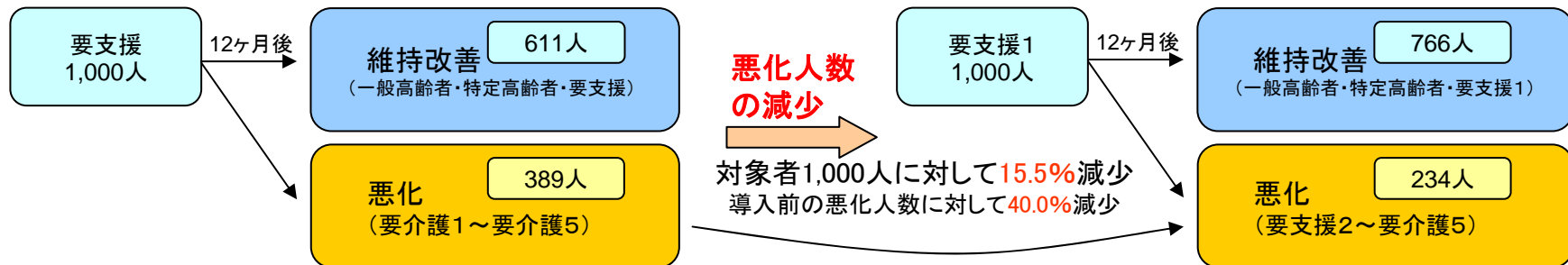
「要介護度が悪化した者の発生率」を用いた 介護予防サービスの効果分析の結果について(概要)

施策導入前

施策導入後

新
予
防
給
付

要
支
援
1
相
当

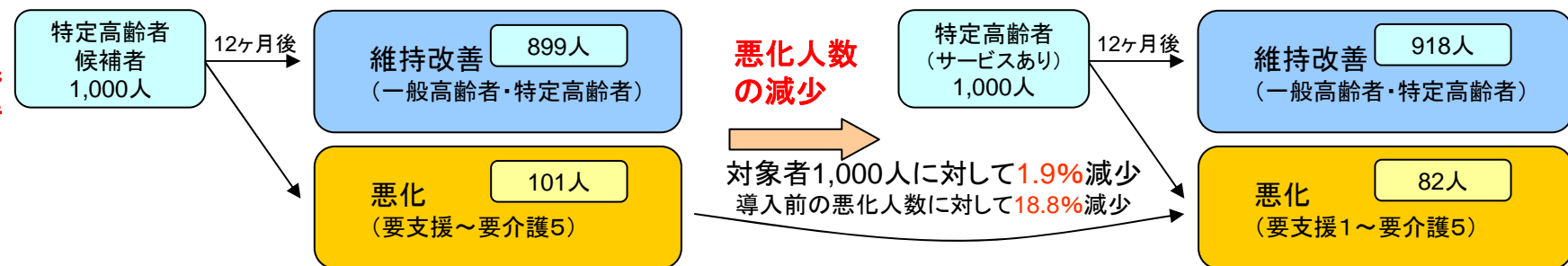


1,000人を1年間追跡(12,000人月)した場合、以下の結果となり、介護予防効果が認められた。

対象者1,000人に対して15.5%(155人)減少し、コントロール群の悪化人数(389人)に対して40%(155人)減少した。

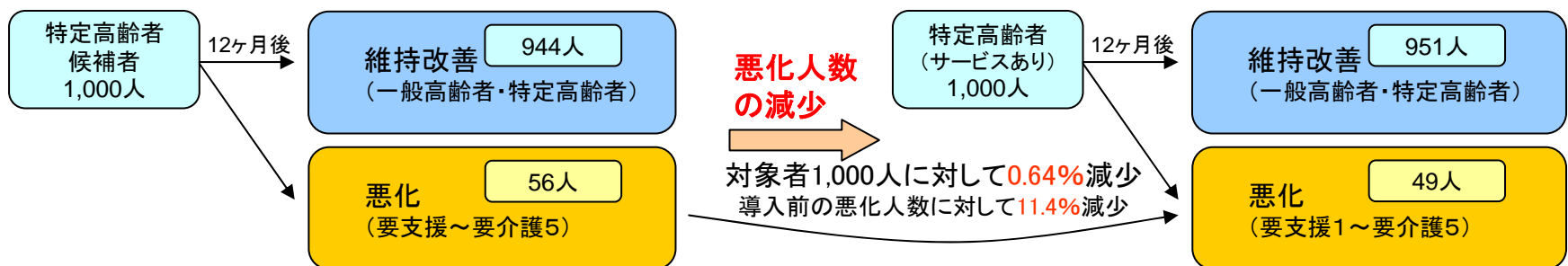
※性・年齢調整を実施

旧
基
準



特
定
高
齢
者
施
策

新
基
準



1,000人を1年間追跡(12,000人月)した場合、以下の結果となり、介護予防効果が認められた(※)。

旧基準では、対象者1,000人に対して1.9%(19人)減少し、コントロール群の悪化人数(101人)に対して18.8%(19人)減少した。

新基準では、対象者1,000人に対して0.64%(6人)減少し、コントロール群の悪化人数(56人)に対して11.4%(6人)減少した。

※統計学的有意差は認められなかった

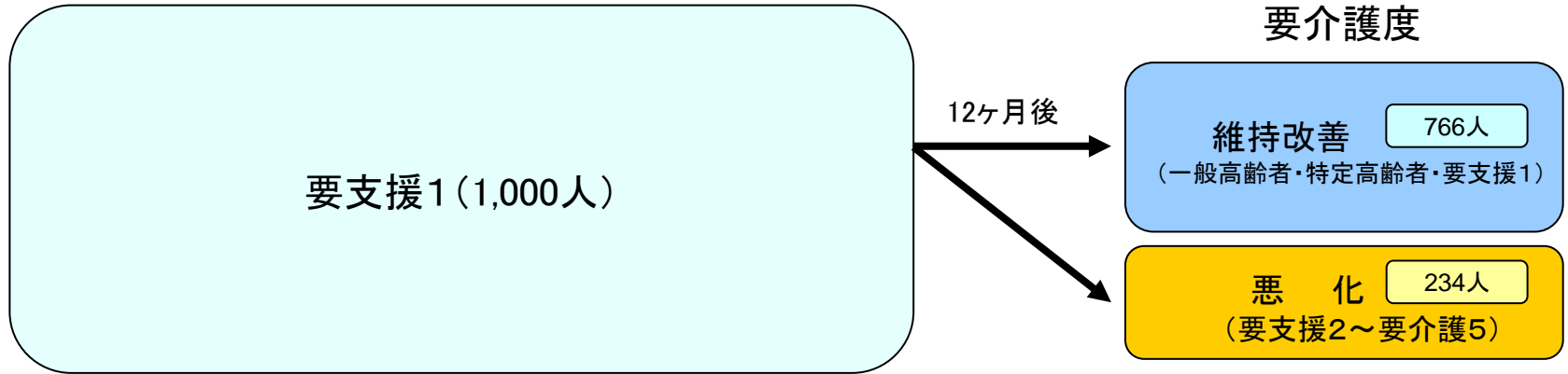
はじめに

— 分析に当たって —

今回の分析イメージについて

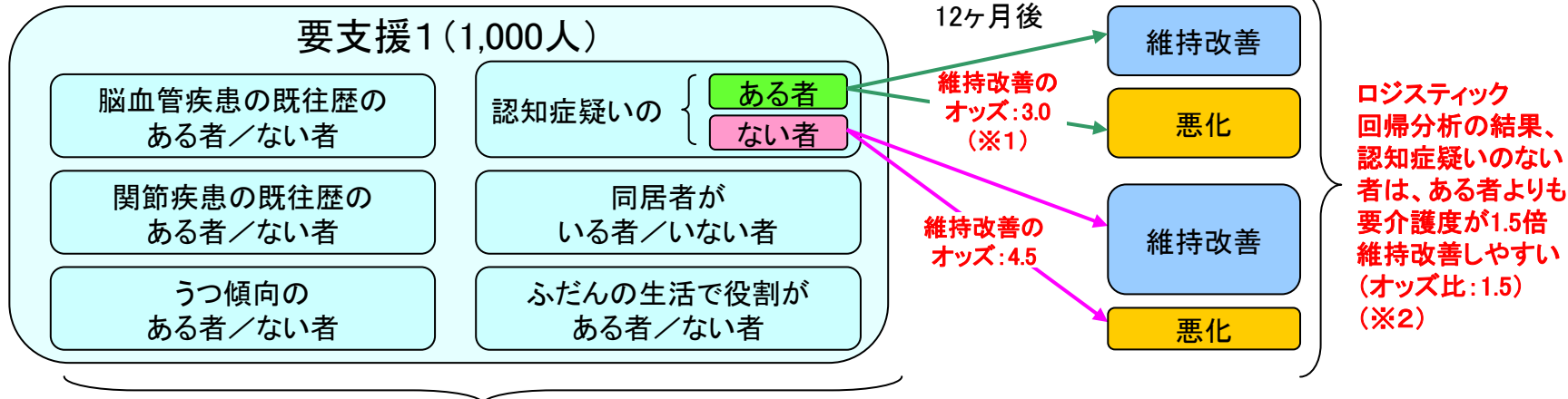
<要支援1の者を例とすると>

第4回
(5月28日)
の分析



ロジスティック
回帰分析

今回
の分析
イメージ



属性の違い

※1 オッズ :ある事象の起こる確率と 起こらない確率との比

※2 オッズ比:ある事象の、一つの群ともう一つの群とにおけるオッズの比

サービスを受ける者の属性等の違いによって、介護予防に係る各種指標の推移と関連がどれくらい違うのかを分析 ➡ 市町村や事業所等が、より効果的・効率的に介護予防を実施できる

対象者について

継続的評価分析支援事業データベース
(平成19年1月1日～平成20年12月31日までに登録)

N=19,827

除外

- ・40歳未満or106歳以上 N= 37
- ・要介護認定等の状況に未回答 N=405

N=19,385

除外

- ・サービス開始後3か月以上経ってから調査開始 N=9,270
- ・経過観察データなし N=1,010

今回の分析対象者

N=9,105

<分析対象者の内訳>

		サービスを終了 または中断した者	サービス 継続中の者	計
観察期間が 12ヶ月未満 のデータ	3ヶ月	1,148	1,302	2,450
	6ヶ月	960	1,082	2,042
	9ヶ月	366	752	1,118
観察期間が12ヶ月 以上のデータ		305	3,190	3,495
計		2,779	6,326	9,105

分析に当たっての課題

課題1

サービスを終了または中断した者や解析データの登録終了時点でサービス継続中の者の取扱いをどうするか。

➡ ○対象者のうち、12ヶ月後までに一般高齢者に改善したり、要介護状態に悪化する等により終了または中断し、その時点以降のデータが入手できなかった者については、除外しないこととし、終了または中断した時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

○対象者のうち、解析データの登録終了時点(平成20年12月31日)にサービス継続中の者については、除外しないこととし、解析データの登録終了時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

課題1

サービスを終了または中断した者や解析データの登録終了時点にサービス継続中の者の取扱いについて

○サービスを終了または中断した者の取扱い

対象者のうち、12ヶ月後までに一般高齢者に改善したり、要介護状態に悪化する等により終了または中断し、その時点以降のデータが入手できなかった者については、除外しないこととし、終了または中断した時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

【理由】

- ① サービスを受ける期間により対象者の基本特性が大きく異なっている。(※1)
- ② サービスを受ける期間が12ヶ月未満の者5,610人のうち、12ヶ月未満で終了または中断した者2,474人(44.1%)について分析すると、サービス利用を再開した者は、わずか18人(0.7%)であった。したがって、終了・中断者のほぼ全員(99.3%)が、終了または中断した時点の状態を維持していたと考えることができる。

○解析データの登録終了時点にサービス継続中の者の取扱い

対象者のうち、解析データの登録終了時点(平成20年12月31日)にサービス継続中の者については、除外しないこととし、解析データの登録終了時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

【理由】

今回の分析は、「維持・改善」をロジスティック回帰分析のエンドポイントとしていることから、介護予防の各種指標の推移が改善した場合にも、分析の結果は変わらないと考えることができる。

※1 サービスを受ける期間ごとの対象者の基本特性の違い

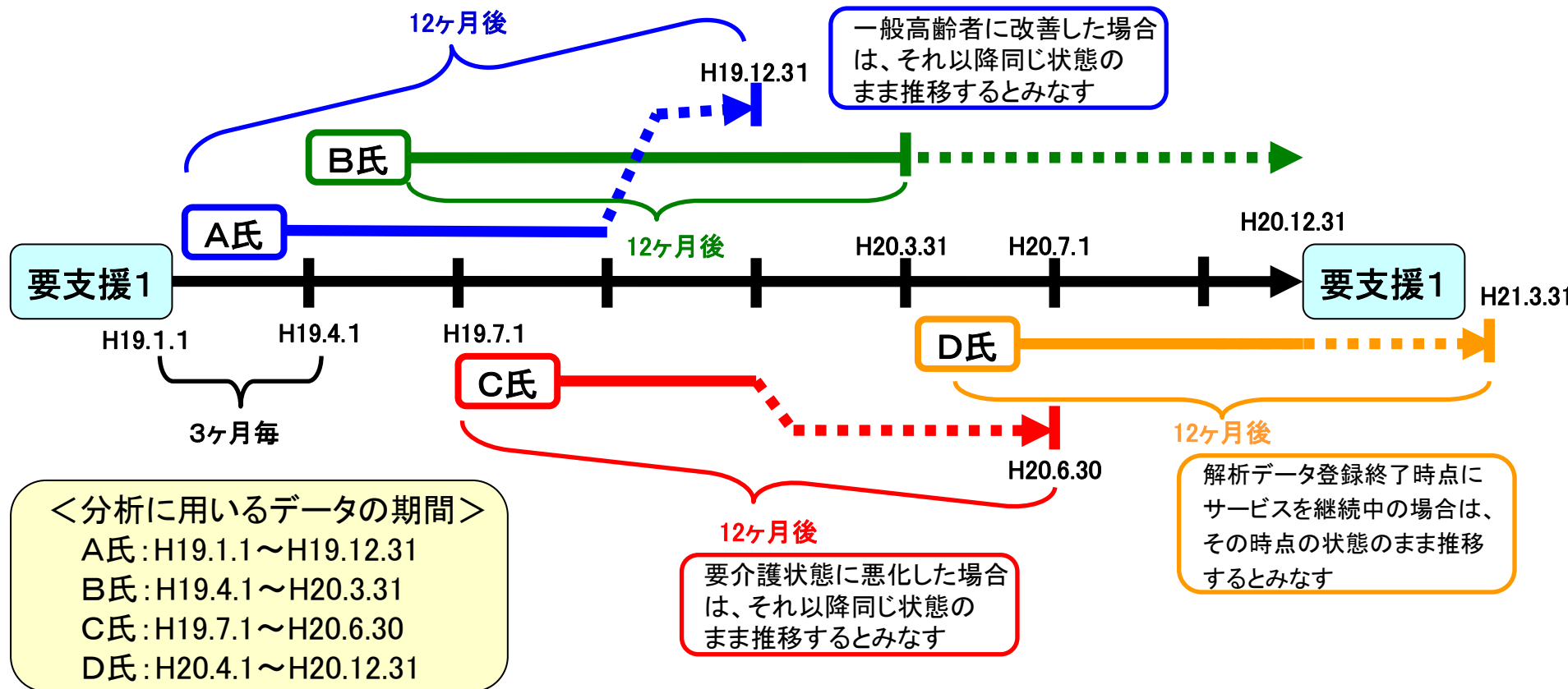
	特定高齢者					要支援1					要支援2					
	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	P値*	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	P値*	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	P値*	
人数(人)	919	493	241	414		668	648	403	1493		863	901	474	1588		
性別(%)	男性	28.1	23.1	24.1	12.8	<0.001	29.3	25.6	24.3	22.1	0.004	29.1	26.3	23.0	23.3	0.008
	女性	71.9	76.9	75.9	87.2		70.7	74.4	75.7	77.9		70.9	73.7	77.0	76.7	
年齢 (平均年齢(SD))	77.6 (6.7)	77.5 (6.0)	79.7 (6.0)	81.1 (5.5)	<0.001	81.2 (6.8)	81.3 (6.3)	81.2 (6.4)	81.2 (6.5)	0.972	81.1 (8.1)	81.3 (7.7)	81.5 (6.9)	80.8 (7.5)	0.143	
基本チェックリスト得点 (平均点(SD))	8.2 (4.0)	8.0 (3.8)	9.5 (4.3)	10.3 (3.9)	<0.001	10.9 (4.3)	10.5 (4.1)	10.4 (4.2)	9.9 (3.8)	<0.001	12.4 (3.9)	11.8 (4.0)	11.8 (3.8)	11.5 (3.9)	<0.001	

* 性別、要介護認定度、障害高齢者の日常生活自立度は χ^2 検定、年齢、基本チェックリスト得点はANOVAにより算出

課題1

サービスを終了または中断した者や解析データの登録終了時点にサービス継続中の者の取扱いについて (分析に用いるデータについて)

<要支援1の者を例とすると>



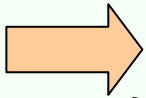
調査開始時と12ヶ月後のデータ(※)を比較して推移をみる。
(要介護度、基本チェックリストの得点、主観的健康度等の各指標)

- ※1 観察後12ヶ月後までに特定高齢者または一般高齢者に改善、要介護状態に悪化等した場合は、それ以降同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。
- ※2 観察後解析データ登録終了時点にサービス継続中の場合は、解析データ登録終了時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

分析に当たっての課題

課題2

分析(ロジスティック回帰分析)を行うにあたり、サービスの種類(介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション等)を説明変数(調整変数)として用いるか。



全対象者について分析を行ったところ、受けるサービスの違いによって、対象者の属性が大きく異なっていることから、サービスの種類を説明変数として用いることは適当ではない。

一方、個別分野(運動器の機能向上等)の分析を行う際には、分野ごとにリスクの高い者に限定して分析を行っていることから、全対象者について分析を行っている場合に比べて対象者の属性の違いは小さくなく、サービスの種類を説明変数に用いても一定の結論を導くことは可能である。

ただし、その場合でも、本調査がRCT(Randomized Controlled Trial: 無作為化比較対照試験)ではなく、バイアスを制御し切れていないことに鑑み、解釈には十分に注意が必要である。

継続評価分析支援事業データを読み解く際の留意事項

- 保健医療技術を評価する際の最も妥当な方法はランダム化比較試験(RCT)である。
RCTでは、対象者が当該サービスを受ける群と受けない群のいずれかに無作為に割り付けられたうえで、その後のアウトカムが比較される。無作為割付が適切に行われた場合、対象者の基本特性(予後関連因子を含む)には上記の2群間で差が生じない。その場合、未知の要因についても群間差がない(均等に分布している)と考えることができる。以上のように、交絡やバイアスの影響が少ないことがRCTの最大の強みであり、1件や2件のRCTだけでも結論を出せることの根拠がここにある。
- 前向きコホート研究では、ある属性を持つ群と持たない群との間や、自発的にサービスを受ける群と受けない群との間で、その後のアウトカムが比較される。
その場合、両群の間には様々な差(サービス利用を希望するかどうかという、意欲の問題、サービスの利用に耐えるかどうかという、全般的な健康レベルや心身機能など、その地域にサービス資源があるかどうかという、供給上の問題など)がある。
したがって結果の解釈は慎重でなければならない。
- 具体的には、有意な群間差が観察された場合、それには、(1)偶然生じたこと、(2)バイアスにより見かけ上の差が見られたこと、(3)交絡により見かけ上の差が見られたこと、(4)真の差、という4つの可能性があり、それら
のうちどれに該当するかを議論しなければならない。多くの場合、1件や2件のコホート研究だけで結論を出すことは
ない。むしろ、異なる対象者、異なる研究の場、異なる評価方法による数多くの研究報告で共通した結果が観察
されて初めて、その方向での結論が検討されることになる。
- 今回の継続的評価分析支援事業のデータは、ある属性を持つ者と持たない者、あるいはあるサービスを受けた者と受けなかった者との間でその後のアウトカムが比較されており、上記の前向きコホート研究に該当する。
- 今回の分析では、様々な属性やサービスについて様々なレベルのアウトカム指標(心身機能の要素的なもの、基本チェックリストのような生活機能、要介護認定度や日常生活自立度といった全人間的な機能、生活の質などで比較を行っている。
これら全て(あるいは、ほぼ全て)で共通した結果が見られる場合、そのことの信頼性は高いものと思われる。
- 一方、1-2カ所の項目がそれ以外の項目と異なる結果になっている場合、それは偶然による影響も考えられるので、その解釈は慎重でなければならない。また、結果が上記のレベルごとに特徴ある場合(例:要素的なレベルになるほど差が明確で、全人間的なレベルになるほど差が曖昧になるといった結果)には、それに相応した解釈(例:そのサービスは、個別要素的な機能の改善には関連があるようだが、そのインパクトは要介護度の改善といったレベルには及んでいないようだといった解釈)を行う必要がある。

基本的な集計結果について

対象者の基本的属性について

- 性・年齢構成は、全国と概ね同様である。
- 通所型介護予防事業(特定高齢者)のサービスは、栄養改善の利用割合がやや低いものの、概ね全国と同様である。
- 訪問型介護予防事業(特定高齢者)のサービスは、運動器の機能向上及び口腔機能の向上の利用割合が高く、栄養改善の利用割合が低い。
- 介護予防通所介護及び介護予防通所リハビリテーション(要支援者)のサービスは、栄養改善及び口腔機能の向上の利用割合が高い。

分析対象者の基本的属性について①(性・年齢構成の比較)

		性別	64歳以下	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85歳以上	合計
調査対象者 (人(%))	特定高齢者	男性	39 (8.1)	89 (18.4)	134 (27.7)	128 (26.5)	93 (19.3)	483 (100.0)	
		女性	147 (9.3)	297 (18.8)	418 (26.4)	451 (28.5)	271 (17.1)	1584 (100.0)	
		合計	186 (9.0)	386 (18.7)	552 (26.7)	579 (28.0)	364 (17.6)	2067 (100.0)	
	要支援者	男性	77 (4.4)	97 (5.5)	225 (12.8)	371 (21.1)	491 (28.0)	1757 (100.0)	
		女性	71 (1.3)	150 (2.8)	455 (8.6)	1105 (20.9)	1681 (31.8)	5281 (100.0)	
		合計	148 (2.1)	247 (3.5)	680 (9.7)	1476 (21.0)	2172 (30.9)	7038 (100.0)	
全国集計※ (人(%))	特定高齢者	男性	1,206 (9.3)	2,535 (19.6)	3,478 (26.8)	3,308 (25.5)	2,427 (18.7)	12,954 (100.0)	
		女性	3,046 (8.0)	6,453 (17.0)	9,938 (26.1)	10,525 (27.7)	8,049 (21.2)	38,011 (100.0)	
		合計	4,252 (8.3)	8,988 (17.6)	13,416 (26.3)	13,833 (27.1)	10,476 (20.6)	50,965 (100.0)	
	要支援者	男性	6,900 (5.1)	10,400 (7.7)	18,700 (13.8)	28,500 (21.0)	34,000 (25.0)	135,900 (100.0)	
		女性	7,400 (1.6)	15,600 (3.5)	45,100 (10.1)	95,600 (21.3)	136,900 (30.5)	448,600 (100.0)	
		合計	14,300 (2.4)	26,000 (4.4)	63,800 (10.9)	124,100 (21.2)	170,900 (29.2)	584,500 (100.0)	

<特定高齢者施策>

分析対象者の基本的属性について②(サービス利用の比較)

概ね全国と同様

調査対象者	通所型介護予防事業と訪問型介護予防事業の集計	うち、サービスの種類ごとの集計			
		運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能向上	
		通所型介護予防事業	2,692 (100.0)	1,771 (65.8)	377 (14.0)
訪問型介護予防事業	217 (100.0)	100 (46.1)	56 (25.8)	61 (28.1)	
全国集計※	通所型介護予防事業	42,039 (100)	26,891 (64.0)	6,938 (19.5)	8,210 (19.5)
	訪問型介護予防事業	7,863 (100)	2,049 (26.1)	4,983 (63.4)	831 (10.6)

運動器の機能向上
及び口腔機能の向上
利用割合が高い

栄養改善の
利用割合が低い

<予防給付(通所サービス)>

調査対象者	介護予防通所介護と介護予防通所リハの集計	うち、サービスの種類ごとの集計			
		運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能向上	
		介護予防通所介護	3,002 (100.0)	1,698 (56.6)	638 (21.3)
介護予防通所リハ	2,132 (100.0)	1,365 (64.0)	386 (18.1)	381 (17.9)	
全国集計※	介護予防通所介護	219,300 (100)	95,400 (43.5)	500 (0.2)	8,500 (3.9)
	介護予防通所リハ	82,200 (100)	59,100 (71.9)	400 (0.5)	1,900 (2.3)

栄養改善及び
口腔機能の向上
利用割合が高い

※ 上記①、②とも、全国集計は、特定高齢者施策が平成18年度介護予防事業報告、予防給付が介護給付費実態調査月報(平成19年2月審査分)のデータ

主要指標の推移について(全体)

○特定高齢者では、要支援者よりも要介護度の維持・改善の割合が高い。

○生活機能の程度※1は、特定高齢者でも要支援者でも、上昇傾向である。

※1 基本チェックリストの合計得点は、高いほど生活機能の程度が低いと考えられる。

○身体的QOL(Quality Of Life)※2は、特定高齢者でも要支援者でも低下傾向である。

○精神的QOL(Quality Of Life)※3は、特定高齢者でも要支援者でも上昇傾向である。

※2・3 身体的サマリースコアおよび精神的サマリースコアは、高いほどそれぞれ身体的、精神的なQOLが高いと考えられる。

<要介護度の推移>

	男性				女性			
	合計	改善n(%)	維持n(%)	悪化n(%)	合計	改善n(%)	維持n(%)	悪化n(%)
特定高齢者	470	131(27.9)	310(66.0)	29(6.2)	1546	410(26.5)	1055(68.2)	81(5.2)
要支援者	1678	101(6.0)	1176(70.1)	401(23.9)	5074	351(6.9)	3698(72.9)	1025(20.2)

<特定高齢者>

	男性				女性			
	開始時		12ヶ月後		開始時		12ヶ月後	
	N	平均値(SD)	N	平均値(SD)	N	平均値(SD)	N	平均値(SD)
基本チェックリスト得点	316	9.3(4.4)	316	8.5(4.8)	1068	9.0(3.9)	1068	8.4(4.3)
身体的サマリースコア(SF8)	318	44.7(7.0)	318	43.8(8.8)	1074	44.4(7.4)	1074	43.9(8.0)
精神的サマリースコア(SF8)	318	50.4(7.5)	318	51.3(7.3)	1074	51.2(7.3)	1074	51.5(6.9)

<要支援者>

	男性				女性			
	開始時		12ヶ月後		開始時		12ヶ月後	
	N	平均値(SD)	N	平均値(SD)	N	平均値(SD)	N	平均値(SD)
基本チェックリスト得点	1375	11.1(4.0)	1375	11.0(4.3)	4271	10.8(4.0)	4271	10.6(4.2)
身体的サマリースコア(SF8)	1384	42.2(8.1)	1384	41.8(9.2)	4271	40.8(8.0)	4271	43.9(8.4)
精神的サマリースコア(SF8)	1384	49.1(8.4)	1384	49.5(8.2)	4271	49.4(8.6)	4271	49.8(8.3)

サービス別の主要指標の推移について

- 同じ種類のサービスを比べると、総じて、要支援者より特定高齢者の方が指標の維持・改善の割合が高い。
- 運動器の機能向上サービスは、概ね指標の維持・改善の割合が高い。
- 栄養改善、閉じこもり予防・支援、認知症予防・支援については、他のサービスに比べて維持・改善の割合が低い指標もある。

<特定高齢者>

	要介護度		主観的健康度		基本チェックリスト区分	
	維持・改善	悪化	維持・改善	悪化	維持・改善	悪化
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)
運動器の機能向上	1644 (94.5)	95 (5.5)	1209 (82.9)	250 (17.1)	1238 (82.2)	269 (17.9)
栄養改善	395 (94.5)	23 (5.5)	285 (83.8)	55 (16.2)	271 (76.8)	82 (23.2)
口腔機能の向上	551 (96.7)	19 (3.3)	403 (83.4)	80 (16.6)	407 (83.4)	81 (16.6)
閉じこもり予防・支援	40 (72.7)	15 (27.3)	33 (82.5)	7 (17.5)	30 (75.0)	10 (25.0)
認知症予防・支援	35 (87.5)	5 (12.5)	23 (74.2)	8 (25.8)	27 (87.1)	4 (12.9)
うつ予防・支援	30 (81.1)	7 (18.9)	24 (88.9)	3 (11.1)	24 (85.7)	4 (14.3)

特定高齢者の方が概ね維持・改善の割合が高い

<要支援者>

	要介護度		主観的健康度		基本チェックリスト区分	
	維持・改善	悪化	維持・改善	悪化	維持・改善	悪化
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)
運動器の機能向上	2274 (78.7)	614 (21.3)	1802 (79.1)	477 (20.9)	1897 (79.0)	505 (21.0)
栄養改善	697 (74.9)	234 (25.1)	548 (77.1)	163 (22.9)	578 (76.8)	175 (23.2)
口腔機能の向上	706 (74.2)	245 (25.8)	551 (76.6)	168 (23.4)	589 (77.3)	173 (22.7)
アクティビティ	1312 (75.9)	417 (24.1)	1081 (78.7)	293 (21.3)	1124 (77.8)	320 (22.2)

※「維持・改善」「悪化」の定義は資料番号12参照

属性・介護予防サービス利用と
介護予防に係る各種指標の
推移との関連の分析結果について
(ロジスティック回帰分析の結果)

分析方法について

○属性等と各種指標の推移との関連について算出するため、ロジスティック回帰分析※1を用いて分析を行った。

○分析にあたっては、各指標について、属性・サービスの違いによる12ヶ月後の「維持・改善」または「悪化」（改善または「維持・悪化」）の状態となる確率の変化について分析した。

(1) 全体の分析については、全数を対象に、男女別に要介護度、基本チェックリスト得点等の主要指標について、維持・改善を目的変数として分析を行った。

(2) 各分野ごとの分析については、①各分野のサービス対象者と考えられるリスクの高い者を対象に、各分野に関連ある指標注を中心とした指標の改善又は維持・改善を目的変数として分析を行い、さらに、②一部の分野で、分野ごとのサービス利用者を対象とした分析などの追加の分析を行った。

注：例えば、口腔機能向上に係る指標については、チェックリストの口腔機能関連3項目の該当の有無、かみしめの変化 など

《全体の分析》

◎要介護度



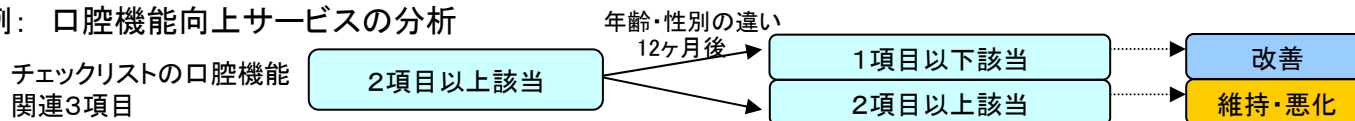
◎基本チェックリスト区分：合計得点を5つに区分(1-5、6-10、11-15、16-20、21-25)し、1区分以上の推移を改善または悪化とする。

◎主観的健康度：6区分のなかで1区分以上の推移を改善または悪化とする。

《各分野ごとの分析》

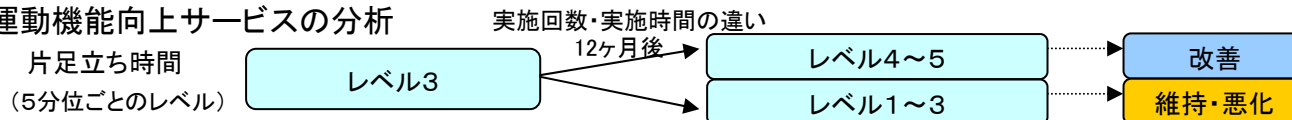
① 各分野のサービス対象者と考えられるリスクの高い者について、改善又は維持・改善を目的変数として分析を行う。

例：口腔機能向上サービスの分析



② サービス利用者について、改善又は維持・改善を目的変数として分析を行う(一部の分野で実施)。

例：運動機能向上サービスの分析



※1 ロジスティック回帰分析：ある事象の発生(目的変数)が、その現象の発生を説明するために観測された変数(説明変数)によってどれくらい説明できるのかを定量的に分析する方法。

※ オッズ：ある事象の起こる確率と起こらない確率との比。

※ オッズ比：ある事象の、一つの群ともう一つの群とにおけるオッズの比。

※ p値(probability)：ある事象が偶然に起こりうる確率であり、一般的に、「p値<0.05」で統計学的有意差あり(偶然に起こりうるとは統計学的に考えにくい差がある。)と判定。

※ 95%CI(Confidence Interval)：対象者全体の値がその区間に存在する確率が95%である区間のこと。

(参考)運動器の機能向上に係る指標の分析方法について

- 運動器の機能向上に係るアウトカムについては、調査開始時のデータを用いて、以下のとおり、各指標について、5分位ごとのレベルに分けた。
- 対象者について、開始時のレベルと、12ヶ月後のレベルを比較し、1つ以上、上のレベルに移行した場合に改善とみなし、同じレベル又は下のレベルに移行した場合を維持・悪化として分析した。

		レベル	握力	開眼片足立ち時間	TUG	5m歩行時間 (通常)	5m歩行時間 (最大)
男性	特定高齢者	1	<=20.9	<=2.6	13.0+	7.2+	5.4+
		2	21.0 - 25.3	2.7 - 4.7	12.9 - 11.0	7.1 - 5.7	5.3 - 4.4
		3	25.4 - 29.2	4.8 - 9.5	10.9 - 9.1	5.6 - 4.8	4.3 - 3.7
		4	29.3 - 33.0	9.6 - 23.7	9.0 - 7.5	4.7 - 4.2	3.6 - 3.1
		5	33.1+	23.8+	<=7.4	<=4.1	<=3.0
	要支援者	1	<=17.9	<=1.9	23.0+	11.9+	9.3+
		2	18.0 - 22.0	2.0 - 3.6	22.9 - 16.6	11.8 - 8.6	9.2 - 6.6
		3	22.4 - 25.3	3.7 - 6.0	16.5 - 13.0	8.5 - 7.0	6.5 - 5.2
		4	25.5 - 30.0	6.1 - 13.9	12.9 - 10.2	6.9 - 5.6	5.1 - 4.2
		5	30.1+	14.0+	<=10.1	<=5.5	<=4.1
女性	特定高齢者	1	<=14.9	<=3.0	12.8+	6.9+	5.5+
		2	15.0 - 17.6	3.1 - 5.5	12.7 - 10.2	6.8 - 5.4	5.4 - 4.4
		3	17.7 - 19.9	5.6 - 10.0	10.1 - 9.0	5.3 - 4.8	4.3 - 3.8
		4	20.0 - 22.4	10.1 - 24.9	8.9 - 7.6	4.7 - 4.1	3.7 - 3.2
		5	22.5+	25.0+	<=7.5	<=4.0	<=3.1
	要支援者	1	<=10.9	<=1.4	23.2+	12.3+	10.2+
		2	11.0 - 13.4	1.5 - 2.8	23.1 - 17.7	12.2 - 9.1	10.1 - 7.3
		3	13.5 - 15.9	2.9 - 5.0	17.6 - 13.8	9.0 - 7.3	7.2 - 5.9
		4	16.0 - 18.4	5.1 - 11.0	13.7 - 10.9	7.2 - 6.0	5.8 - 4.7
		5	18.5+	11.1+	<=10.8	<=5.9	<=4.6

属性等による各種指標の推移との関連について：総論①

全数を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○年齢は、若年であるほど維持・改善しやすい。

・特定高齢者・要支援者ともに、年齢が高いほど、要介護度、基本チェックリスト区分、認知症高齢者の日常生活自立度の維持・改善のオッズ比が有意に1未満。

○独居者は、維持・改善しやすい。

・要支援者では、同居者がいる場合は、要介護度の維持・改善のオッズ比が有意に1未満。

○ふだんの過ごし方で役割がある者は、維持・改善しやすい。

・要支援者では、ふだんの過ごし方で役割がある場合は、要介護度の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

		要介護度		基本チェックリスト区分		認知症高齢者の日常生活自立度		障害高齢者の日常生活自立度		主観的健康度		SF8身体		SF8精神	
		オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値
年齢	特定高齢者														
	連続変数	0.95 (0.92-0.98)	0.003	0.97 (0.95-0.99)	0.007	0.95 (0.92-0.97)	<0.001	0.99 (0.96-1.01)	0.288	0.99 (0.97-1.01)	0.137	0.98 (0.96-1.01)	0.176	1.00 (0.97-1.03)	0.943
	要支援者														
	連続変数	0.99 (0.98-1.00)	0.005	0.98 (0.97-0.99)	<0.001	0.97 (0.96-0.98)	<0.001	0.99 (0.98-1.00)	0.060	0.99 (0.98-1.00)	0.125	1.00 (0.99-1.01)	0.772	1.00 (0.99-1.01)	0.831
性別	特定高齢者														
	男性	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	女性	1.05 (0.66-1.69)	0.832	1.02 (0.75-1.40)	0.902	1.10 (0.77-1.59)	0.594	1.00 (0.69-1.45)	0.997	1.13 (0.84-1.52)	0.418	0.86 (0.59-1.25)	0.425	0.89 (0.57-1.38)	0.596
	要支援者														
	男性	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	女性	1.09 (0.95-1.26)	0.234	1.09 (0.93-1.27)	0.287	1.04 (0.88-1.22)	0.671	1.02 (0.85-1.23)	0.855	1.00 (0.85-1.16)	0.956	1.18 (0.98-1.43)	0.079	0.94 (0.77-1.15)	0.574
同居者	特定高齢者														
	なし	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	あり	0.90 (0.53-1.52)	0.698	0.86 (0.61-1.21)	0.387	1.13 (0.77-1.65)	0.537	1.19 (0.82-1.73)	0.371	1.01 (0.74-1.39)	0.929	0.98 (0.67-1.45)	0.933	1.38 (0.90-2.10)	0.138
	要支援者														
	なし	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	あり	0.82 (0.71-0.94)	0.006	1.03 (0.89-1.19)	0.706	0.95 (0.81-1.11)	0.521	0.92 (0.77-1.10)	0.350	1.02 (0.89-1.18)	0.752	1.04 (0.87-1.24)	0.705	1.09 (0.91-1.32)	0.343
ふだんの過ごし方(役割)	特定高齢者														
	なし	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	あり	1.20 (0.79-1.84)	0.393	0.98 (0.75-1.29)	0.906	0.83 (0.61-1.15)	0.268	0.98 (0.71-1.35)	0.900	0.97 (0.75-1.26)	0.833	0.92 (0.67-1.27)	0.619	1.04 (0.73-1.49)	0.826
	要支援者														
	なし	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	あり	1.21 (1.05-1.40)	0.008	0.91 (0.79-1.05)	0.195	1.14 (0.98-1.33)	0.090	0.95 (0.80-1.13)	0.553	1.02 (0.89-1.17)	0.782	1.04 (0.87-1.23)	0.697	1.09 (0.91-1.31)	0.337

※上記の他、基本チェックリスト得点、長谷川式簡易知能評価スケール、GDS15、認知的活動、疾患既往歴、家族や友人・知人等による支えであるソーシャルサポート(困ったときの相談相手、体の具合が悪い時の相談相手、日常生活を支援してくれる人、具合が悪いとき病院に連れて行ってくれる人、寝込んだとき身のまわりの世話をしてくれる人)を投入して分析

属性等による各種指標の推移との関連について：総論②

全数を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○認知機能が高い者は、維持・改善しやすい。

・要支援者では、長谷川式簡易知能評価スケール21点以上(認知機能が高い)の者は20点以下の者に比べて要介護度の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

○認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は、維持・改善しやすい。

・特定高齢者では、得点の高い方が要介護度、認知症高齢者の日常生活自立度の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

・要支援者では、15-18点の場合に基本チェックリスト区分の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

※ 認知的活動： テレビを見る、ラジオを聞く、新聞を読む、雑誌を読む、本を読む、トランプ・マーじゃんなどのゲームをする 等

		要介護度		基本チェックリスト区分		認知症高齢者の日常生活自立度		障害高齢者の日常生活自立度		主観的健康度		SF8身体		SF8精神	
		オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値
基本チェックリスト得点	特定高齢者 連続変数	0.94 (0.89-0.99)	0.020	-	-	0.94 (0.90-0.98)	0.001	0.97 (0.93-1.01)	0.147	1.02 (0.99-1.06)	0.177	1.02 (0.98-1.06)	0.360	0.96 (0.92-1.01)	0.103
	要支援者 連続変数	0.95 (0.94-0.97)	<0.001	-	-	1.00 (0.98-1.02)	0.937	0.99 (0.97-1.01)	0.226	1.01 (1.00-1.03)	0.167	1.02 (1.00-1.05)	0.044	0.98 (0.96-1.00)	0.086
長谷川式簡易知能評価スケール	特定高齢者 20点以下	1.00	-	1.00	-	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	21点以上	1.36 (0.80-2.31)	0.254	0.72 (0.47-1.11)	0.136	-	-	0.98 (0.61-1.59)	0.944	0.80 (0.52-1.21)	0.292	1.17 (0.73-1.89)	0.511	0.66 (0.35-1.24)	0.196
	要支援者 20点以下	1.00	-	1.00	-	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	21点以上	1.59 (1.38-1.83)	<0.001	0.96 (0.81-1.14)	0.610	-	-	1.08 (0.89-1.31)	0.467	0.97 (0.82-1.15)	0.722	1.00 (0.81-1.24)	0.983	1.06 (0.86-1.32)	0.585
GDS15	特定高齢者 11点以上	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	10点以下	1.20 (0.57-2.52)	0.629	0.65 (0.34-1.24)	0.190	0.75 (0.37-1.50)	0.410	0.83 (0.40-1.69)	0.600	0.95 (0.53-1.70)	0.860	0.91 (0.44-1.86)	0.790	1.46 (0.74-2.88)	0.272
	要支援者 11点以上	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	10点以下	0.95 (0.77-1.16)	0.592	0.94 (0.75-1.18)	0.593	1.05 (0.83-1.32)	0.696	0.75 (0.56-1.01)	0.055	0.90 (0.71-1.13)	0.359	1.22 (0.93-1.60)	0.154	0.67 (0.48-0.92)	0.013
認知的活動	特定高齢者 14点以下	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	15-18点	1.65 (1.02-2.67)	0.042	1.10 (0.79-1.53)	0.567	1.07 (0.75-1.55)	0.701	1.05 (0.71-1.54)	0.804	1.18 (0.85-1.62)	0.322	1.03 (0.70-1.51)	0.893	0.98 (0.64-1.52)	0.935
	19点以上	2.00 (1.22-3.26)	0.006	1.25 (0.91-1.72)	0.165	1.61 (1.10-2.35)	0.015	1.04 (0.72-1.51)	0.836	1.01 (0.75-1.37)	0.943	1.09 (0.75-1.58)	0.666	1.17 (0.76-1.80)	0.467
	要支援者 14点以下	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	15-18点	1.10 (0.95-1.27)	0.216	1.19 (1.01-1.40)	0.036	1.09 (0.93-1.29)	0.289	1.00 (0.83-1.21)	0.982	0.95 (0.81-1.11)	0.493	1.15 (0.94-1.39)	0.174	0.99 (0.81-1.21)	0.882
19点以上	1.13 (0.97-1.31)	0.117	1.06 (0.91-1.24)	0.457	1.14 (0.97-1.35)	0.115	1.01 (0.83-1.21)	0.962	0.99 (0.85-1.16)	0.929	1.04 (0.86-1.26)	0.668	0.96 (0.79-1.17)	0.673	

※上記の他、年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、疾患既往歴、ソーシャルサポートを投入して分析

属性等による各種指標の推移との関連について：総論③

全数を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○疾患既往歴は、介護予防に係る各種指標の推移に関連がある。

○脳血管疾患既往歴がない者は、維持・改善しやすい。

- ・特定高齢者では、脳血管疾患既往歴がない場合に要介護度の維持・改善のオッズ比は有意に1より大。また、高齢による衰弱の既往歴がない場合には要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、SF8精神の維持・改善のオッズ比は有意に1より大、
- ・要支援者では、脳血管疾患既往歴がない場合に要介護度と認知症高齢者の日常生活自立度、認知症がない場合に要介護度、高齢による衰弱がない場合に要介護度、認知症高齢者の日常生活自立度の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。一方、関節疾患既往歴がない場合は要介護度、高齢による衰弱がない場合はSF8精神の維持・改善のオッズ比が有意に1未満。

		要介護度		基本チェックリスト区分		認知症高齢者の日常生活自立度		障害高齢者の日常生活自立度		主観的健康度		SF8身体		SF8精神	
		オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値
疾患既往歴 (脳血管疾患)	特定高齢者														
	あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	なし	2.01 (1.13-3.56)	0.018	0.87 (0.55-1.37)	0.538	0.97 (0.58-1.62)	0.909	1.04 (0.62-1.75)	0.880	0.84 (0.54-1.30)	0.426	1.45 (0.90-2.33)	0.123	0.94 (0.51-1.75)	0.848
	要支援者														
あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
なし	1.21 (1.03-1.42)	0.023	1.06 (0.89-1.26)	0.521	1.22 (1.02-1.47)	0.029	1.21 (0.99-1.48)	0.063	0.89 (0.75-1.06)	0.187	0.84 (0.67-1.05)	0.120	0.88 (0.70-1.10)	0.251	
疾患既往歴 (関節疾患)	特定高齢者														
	あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	なし	1.31 (0.81-2.12)	0.267	0.98 (0.72-1.33)	0.892	0.81 (0.55-1.19)	0.289	0.90 (0.62-1.30)	0.563	0.96 (0.72-1.28)	0.796	0.82 (0.57-1.18)	0.288	1.03 (0.69-1.55)	0.873
	要支援者														
あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
なし	0.86 (0.73-1.00)	0.044	0.88 (0.75-1.03)	0.097	1.01 (0.86-1.19)	0.893	0.84 (0.69-1.02)	0.077	0.97 (0.84-1.13)	0.709	1.00 (0.83-1.21)	0.994	0.81 (0.66-0.99)	0.038	
疾患既往歴 (認知症)	特定高齢者														
	あり	1.00	-	1.00	-	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	なし	1.11 (0.44-2.78)	0.831	1.13 (0.56-2.30)	0.736	-	-	0.69 (0.26-1.79)	0.441	0.85 (0.40-1.80)	0.663	0.50 (0.17-1.43)	0.196	-	0.977
	要支援者														
あり	1.00	-	1.00	-	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
なし	2.58 (2.05-3.25)	<0.001	0.93 (0.68-1.28)	0.669	-	-	0.93 (0.66-1.32)	0.687	1.07 (0.79-1.44)	0.667	1.23 (0.86-1.75)	0.257	0.87 (0.58-1.31)	0.502	
疾患既往歴 (骨折・転倒)	特定高齢者														
	あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	なし	1.60 (0.90-2.87)	0.111	0.79 (0.50-1.23)	0.292	0.86 (0.51-1.43)	0.552	0.93 (0.56-1.55)	0.787	0.95 (0.64-1.43)	0.809	0.99 (0.60-1.61)	0.954	1.68 (1.03-2.73)	0.036
	要支援者														
あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
なし	1.03 (0.88-1.21)	0.683	0.85 (0.72-1.02)	0.077	1.07 (0.90-1.27)	0.457	1.01 (0.82-1.23)	0.946	0.93 (0.78-1.10)	0.370	1.01 (0.82-1.25)	0.892	1.00 (0.80-1.23)	0.961	
疾患既往歴 (高齢による衰弱)	特定高齢者														
	あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
	なし	2.04 (1.09-3.81)	0.027	1.30 (0.80-2.12)	0.290	0.65 (0.34-1.23)	0.182	1.81 (1.10-2.98)	0.019	0.75 (0.44-1.28)	0.294	0.81 (0.42-1.55)	0.517	1.98 (1.10-3.56)	0.023
	要支援者														
あり	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
なし	1.35 (1.09-1.67)	0.006	0.92 (0.73-1.18)	0.520	1.26 (1.00-1.59)	0.046	1.02 (0.77-1.35)	0.883	0.81 (0.63-1.03)	0.081	0.94 (0.70-1.26)	0.663	0.63 (0.45-0.89)	0.009	

※上記の他、年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、基本チェックリスト得点、長谷川式簡易知能評価スケール、GDS15、認知的活動、ソーシャルサポートを投入して分析

運動器の機能向上①

運動器の機能に係るリスクが高い(基本チェックリストで運動器関連の5項目中3項目以上該当する)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○年齢は、若年であるほど改善しやすい。

・特定高齢者では、年齢が高いほど、基本チェックリスト(運動器関連項目)の改善のオッズ比が有意に1未満。

○性別は、男性の方が改善しやすい。

・特定高齢者では、女性の方が、基本チェックリスト(運動器関連項目)の改善のオッズ比が有意に1未満。

○ふだんの過ごし方で役割がある者は改善しやすい。

・要支援者では、ふだんの過ごし方で役割がある場合は、基本チェックリスト(運動器関連項目)の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

○基本チェックリスト得点が低い(生活機能の程度が高い)ほど改善しやすい。

・特定高齢者、要支援者ともに、基本チェックリスト得点が高いほど、基本チェックリスト(運動器関連項目)の改善のオッズ比が有意に1未満。

○認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。

・特定高齢者、要支援者ともに、得点の高い方が基本チェックリスト(運動器関連項目)の改善のオッズ比が有意に1より大。

		基本チェックリスト(運動器関連項目)			
		特定高齢者		要支援	
		オッズ比 (95%CI)	p-値	オッズ比 (95%CI)	p-値
年齢		1.00		1.00	
	連続変数	0.97 (0.95- 1.00)	0.020	0.99 (0.98- 1.01)	0.407
性別	男性	1.00		1.00	
	女性	0.65 (0.46- 0.91)	0.013	0.79 (0.61- 1.03)	0.077
同居者	なし	1.00		1.00	
	あり	0.89 (0.63- 1.27)	0.530	0.85 (0.67- 1.09)	0.196
ふだんの過ごし方(役割)	なし	1.00		1.00	
	あり	1.07 (0.80- 1.44)	0.644	1.33 (1.05- 1.67)	0.016
基本チェックリスト得点					
	連続変数	0.914 (0.86- 0.96)	0.000	0.908 (0.88- 0.94)	0.000
長谷川式簡易知能評価スケール	20点以下	1.00		1.00	
	21点以上	0.86 (0.55- 1.35)	0.517	0.98 (0.72- 1.32)	0.884
GDS15	11点以上	1.00		1.00	
	10点以下	0.82 (0.44- 1.53)	0.534	1.10 (0.70- 1.73)	0.676
認知的活動	14点以下	1.00		1.00	
	15-18点	1.05 (0.72- 1.52)	0.803	1.07 (0.82- 1.41)	0.615
	19点以上	1.43 (1.01- 2.03)	0.045	1.34 (1.04- 1.73)	0.024

※上記の他、疾患既往歴、ソーシャルサポート、利用サービスを投入して分析

運動器の機能向上②

運動器の機能に係るリスクが高い(基本チェックリストで運動器関連の5項目中3項目以上該当する)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○要支援者に対する介護予防通所介護(運動器の機能向上サービス)の実施者は改善しやすい。

・要支援者では、介護予防通所介護(運動器の機能向上サービス)を実施している者は、基本チェックリスト(運動器関連項目)の改善のオッズ比が有意に1より大。

		基本チェックリスト(運動器関連項目)			
		特定高齢者		要支援者	
		オッズ比 (95%CI)	p-値	オッズ比 (95%CI)	p-値
疾患既往歴(脳血管疾患)	あり	1.00		1.00	
	なし	0.99 (0.62- 1.57)	0.951	1.20 (0.89- 1.62)	0.237
疾患既往歴(関節疾患)	あり	1.00		1.00	
	なし	1.30 (0.93- 1.81)	0.121	1.54 (1.18- 2.02)	0.002
疾患既往歴(認知症)	あり	1.00		1.00	
	なし	0.44 (0.22- 0.88)	0.020	0.51 (0.32- 0.81)	0.004
疾患既往歴(骨折・転倒)	あり	1.00		1.00	
	なし	0.84 (0.55- 1.26)	0.395	1.38 (1.03- 1.86)	0.032
疾患既往歴(高齢による衰弱)	あり	1.00		1.00	
	なし	1.44 (0.78- 2.66)	0.248	1.23 (0.80- 1.88)	0.341
通所型介護事業(運動器の機能向上)	非実施	1.00		—	
	実施	1.04 (0.60- 1.83)	0.893		
訪問型介護事業(運動器の機能向上)	非実施	1.00		—	
	実施	0.72 (0.36- 1.43)	0.351		
介護予防通所介護(運動器の機能向上)	非実施	—		1.00	
	実施			1.35 (1.03- 1.77)	0.029
介護予防通所リハビリテーション(運動器の機能向上)	非実施	—		1.00	
	実施			1.07 (0.79- 1.44)	0.680
介護予防通所介護(アクティビティ)	非実施	—		1.00	
	実施			1.12 (0.85- 1.48)	0.419

※上記の他、年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、基本チェックリスト得点、長谷川式簡易知能評価スケール、GDS15、認知的活動、ソーシャルサポートを投入して分析

運動器の機能向上③

運動器の機能向上サービスの利用者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○運動器に係る指標は、マシンによる又はマシンによらない筋力増強訓練、持久性訓練及び日常生活に関わる訓練で、維持・改善しやすい。

・特定高齢者では、マシンによる筋力増強訓練において通常歩行時間、マシンによらない筋力増強訓練においては主観的健康度と通常歩行時間、持久性訓練においては通常歩行時間と最大歩行時間の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。また、日常生活動作に関わる訓練においては片足立ち時間、TUG、通常歩行時間及び最大歩行時間の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

		要介護度		基本チェックリスト区分		主観的健康度		片足立ち時間		TUG		通常歩行時間		最大歩行時間	
		オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値
特定 高齢者	マシンによる筋力増強訓練	0.816	0.543	1.452	0.095	1.161	0.440	1.260	0.277	1.310	0.253	2.177	0.008	1.171	0.495
	マシンによらない筋力増強訓練	1.377	0.242	1.393	0.075	1.959	0.000	0.873	0.454	1.352	0.119	1.934	0.003	1.413	0.073
	持久性訓練	0.749	0.424	1.286	0.298	1.457	0.078	1.280	0.289	1.176	0.545	2.639	0.019	3.020	0.000
	日常生活動作に関わる訓練	0.766	0.342	1.398	0.079	1.170	0.360	2.010	0.000	1.497	0.041	1.616	0.025	1.651	0.008
	レクリエーション・ゲーム	0.772	0.345	0.874	0.446	1.012	0.940	0.924	0.635	0.526	0.001	0.958	0.829	0.857	0.387
要 支援者	マシンによる筋力増強訓練	1.318	0.051	0.878	0.394	0.853	0.259	1.302	0.112	1.085	0.639	1.158	0.392	1.015	0.929
	マシンによらない筋力増強訓練	1.306	0.031	0.761	0.052	1.001	0.993	1.172	0.303	1.114	0.493	0.931	0.649	0.952	0.757
	持久性訓練	1.296	0.076	0.781	0.098	1.124	0.419	0.726	0.036	1.070	0.692	1.062	0.714	0.795	0.150
	日常生活動作に関わる訓練	1.110	0.353	0.960	0.743	0.911	0.420	1.041	0.768	1.008	0.951	1.002	0.986	0.927	0.576
	レクリエーション・ゲーム	0.907	0.412	0.917	0.517	0.897	0.376	1.113	0.444	0.778	0.091	1.151	0.317	1.327	0.044

※上記の他、年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、基本チェックリスト得点、長谷川式簡易知能評価スケール、GDS15、認知的活動、ソーシャルサポートを投入して分析

運動器の機能向上④

運動器の機能向上サービスの利用者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○実施回数が一定の回数以上の場合で維持・改善しやすい。

・特定高齢者では、実施回数が週1回以上の場合に通常歩行時間の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

○1回の実施時間が一定時間以上の場合で維持・改善しやすい。

・特定高齢者では、実施時間が1時間以上の場合に要介護度の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

・要支援者では、30分以上1時間未満の場合にTUG、1時間以上2時間未満の場合に片足立ち時間の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

			要介護度		基本チェックリスト区分		主観的健康度		片足立ち時間		TUG		通常歩行時間		最大歩行時間	
			オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値
特定 高齢者	実施 回数	週1回未満	1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000	
		週1回以上 週2回未満	1.599	0.201	1.082	0.770	1.100	0.697	1.270	0.370	1.159	0.626	2.172	0.005	1.447	0.171
		週2回以上	1.168	0.766	1.367	0.425	1.007	0.983	1.550	0.247	1.074	0.862	4.220	0.001	1.701	0.181
	実施 時間	30分未満	1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000	
		30分以上 1時間未満	1.475	0.508	0.771	0.703	0.826	0.712	1.076	0.897	0.460	0.339	0.594	0.415	1.769	0.307
		1時間以上 2時間未満	3.763	0.017	0.695	0.569	1.140	0.785	1.483	0.445	0.557	0.449	1.212	0.747	2.110	0.130
		2時間以上	4.599	0.007	0.725	0.616	1.136	0.792	1.056	0.916	0.320	0.138	0.560	0.326	1.043	0.932
要 支援者	実施 回数	週1回未満	1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000	
		週1回以上 週2回未満	0.833	0.331	0.699	0.100	1.116	0.547	0.931	0.759	1.028	0.903	1.042	0.854	1.008	0.973
		週2回以上	1.149	0.483	0.658	0.065	1.381	0.097	0.804	0.372	1.426	0.137	1.160	0.527	0.913	0.705
	実施 時間	30分未満	1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000		1.000	
		30分以上 1時間未満	1.311	0.074	1.031	0.859	1.251	0.151	1.405	0.068	1.729	0.003	0.942	0.743	0.900	0.570
		1時間以上 2時間未満	1.291	0.124	0.965	0.848	1.302	0.122	1.541	0.030	1.093	0.647	1.410	0.095	1.187	0.405
		2時間以上	1.056	0.749	0.935	0.723	1.184	0.337	1.395	0.110	1.297	0.206	1.157	0.486	1.173	0.450

※上記の他、年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、基本チェックリスト得点、長谷川式簡易知能評価スケール、GDS15、認知的活動、ソーシャルサポートを投入して分析

運動器の機能向上⑤

運動器の機能向上サービスの利用者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○属性とサービスとの関連は、以下のとおりとなった。

(要介護度・基本チェックリスト区分の維持改善の両者に共通する結果のみ抽出)

- ・脳血管疾患の既往がない者では、マシンによる筋力増強訓練で維持・改善しやすい。
- ・認知症の既往がない者では、日常生活動作に関わる訓練で維持・改善しやすい。
- ・認知機能が低下していない者では、マシンによらない筋力増強訓練が維持・改善しやすい。
- ・認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)では、日常生活動作に関する訓練及びレクリエーション・ゲームで維持・改善しやすい。
- ・要支援者よりも特定高齢者の方が、すべてのサービス内容で維持・改善しやすい。

		マシンによる筋力増強				マシンによらない筋力増強				持久性訓練				日常生活動作に関わる訓練				レクリエーション・ゲーム			
		要介護度		基本チェックリスト区分		要介護度		基本チェックリスト区分		要介護度		基本チェックリスト区分		要介護度		基本チェックリスト区分		要介護度		基本チェックリスト区分	
		オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値	オッズ比	p-値		
高齢区分	後期高齢者=1	0.77	0.33	0.91	0.70	0.84	0.36	0.68	0.03	1.17	0.60	1.12	0.65	0.67	0.11	0.79	0.31	0.73	0.10	0.71	0.07
性別	女性=1	1.22	0.33	0.85	0.44	1.09	0.54	0.86	0.32	1.06	0.82	1.03	0.92	1.10	0.60	0.77	0.18	1.25	0.13	0.77	0.12
要介護度	要支援者=1	0.42	0.00	0.53	0.00	0.24	0.00	0.54	0.00	0.41	0.00	0.39	0.00	0.33	0.00	0.54	0.00	0.29	0.00	0.69	0.01
同居者	あり=1	1.09	0.74	0.92	0.74	0.77	0.11	0.81	0.17	0.85	0.61	0.73	0.30	0.92	0.67	0.83	0.38	0.92	0.59	0.91	0.54
ふだんの過ごし方	あり=1	1.40	0.14	1.46	0.06	1.10	0.52	1.29	0.05	1.07	0.79	1.34	0.22	1.32	0.13	1.59	0.01	1.27	0.09	1.42	0.01
基本チェックリスト得点	連続	0.94	0.02	1.18	0.00	0.96	0.01	1.19	0.00	0.95	0.09	1.17	0.00	0.96	0.09	1.19	0.00	0.96	0.01	1.18	0.00
長谷川式簡易知能評価スケール	21点以上=1	1.71	0.03	1.31	0.33	1.75	0.00	1.41	0.03	1.08	0.81	1.14	0.69	1.59	0.01	1.36	0.14	2.15	0.00	1.36	0.06
GDS15	10点以下=1	0.91	0.80	1.87	0.12	1.11	0.65	2.17	0.00	0.96	0.94	2.37	0.07	1.00	1.00	1.95	0.04	0.97	0.87	1.80	0.02
認知的活動	14点以下	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	15点-18点	1.01	0.96	1.39	0.16	1.16	0.31	1.43	0.02	1.12	0.70	1.18	0.56	1.52	0.02	1.47	0.05	1.11	0.47	1.32	0.07
	19点以上	1.66	0.04	1.35	0.17	1.19	0.27	1.37	0.03	1.21	0.50	1.08	0.78	1.53	0.02	1.48	0.04	1.36	0.05	1.39	0.03
疾患既往症(脳血管疾患)	なし=1	1.59	0.05	1.93	0.01	1.28	0.12	1.02	0.91	1.09	0.77	1.65	0.07	1.49	0.03	0.88	0.56	1.34	0.06	1.09	0.62
疾患既往症(関節疾患)	なし=1	0.87	0.57	1.02	0.92	0.83	0.23	1.03	0.82	1.17	0.56	0.95	0.85	0.72	0.10	0.76	0.16	0.92	0.58	1.08	0.59
疾患既往症(認知症)	なし=1	2.85	0.01	1.17	0.76	2.20	0.00	1.45	0.16	1.75	0.42	1.48	0.53	2.90	0.00	2.17	0.02	1.93	0.00	1.09	0.75
疾患既往症(骨折・転倒)	なし=1	1.03	0.91	0.84	0.52	0.85	0.32	0.84	0.30	1.81	0.04	0.69	0.25	0.89	0.57	0.83	0.38	0.93	0.65	0.88	0.45
疾患既往症(衰弱)	なし=1	1.47	0.27	2.21	0.01	1.41	0.12	0.99	0.97	1.13	0.81	1.52	0.36	1.34	0.28	0.96	0.90	1.47	0.08	1.26	0.31

※上記の他、ソーシャルサポートを投入して分析

栄養改善①

栄養に係るリスクが高い(特定高齢者では基本チェックリストで栄養関連の2項目中2項目、要支援者では2項目のいずれかが該当。BMIと体重増加率の分析ではBMI18.5未満、食事摂取量の分析では不良)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○特定高齢者では、男性の方が改善しやすい。

・特定高齢者では、女性の方が、BMIの改善のオッズ比が有意に1未満。

○要支援者では、基本チェックリスト得点が高い(生活機能の程度が高い)ほど改善しやすい。

・要支援者では、基本チェックリスト得点が高いほど、基本チェックリスト(栄養関連項目)の改善のオッズ比が有意に1未満。

	特定高齢者										要支援者									
	基本チェックリスト(栄養関連項目)				BMI(18.5未満)		体重増加率		食事摂取量		基本チェックリスト(栄養関連項目)		BMI(18.5未満)		体重増加率		食事摂取量			
	多変量補正		参考(性・年齢補正)		オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値		
	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値																
年齢	連続変数	-	-			1.04(0.99-1.09)	0.115	0.98(0.94-1.03)	0.464	-	-	0.99(0.97-1.00)	0.059	0.99(0.97-1.01)	0.288	0.99(0.97-1.02)	0.540	1.00(0.97-1.03)	0.959	
性別	男性	-	-			1.00	-	1.00	-	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
	女性	-	-			0.40(0.19-0.87)	0.020	0.50(0.24-1.05)	0.065	-	-	1.24(0.99-1.55)	0.061	1.22(0.86-1.72)	0.267	1.10(0.76-1.58)	0.605	0.92(0.56-1.51)	0.736	
基本チェックリスト得点	連続変数	-	-	1.02(0.88-1.17)	0.830	-	-	-	-	-	-	0.96(0.94-0.98)	<0.001	-	-	-	-	-	-	
長谷川式簡易知能 評価スケール	20点以下	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	21点以上	-	-	0.73(0.12-4.48)	0.732	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
GDS15	11点以上	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10点以下	-	-	0.80(0.14-4.54)	0.798	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
認知的活動	14点以下	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	1.00	-
	15-18点	-	-	2.59(0.59-11.41)	0.210	-	-	-	-	-	-	-	-	0.78(0.55-1.12)	0.187	-	-	0.57(0.34-0.95)	0.030	
	19点以上	-	-	2.43(0.63-9.38)	0.197	-	-	-	-	-	-	-	-	0.75(0.52-1.07)	0.110	-	-	0.81(0.49-1.36)	0.427	

※ロジスティック回帰分析においては、性・年齢補正の解析で「p<0.1」であった項目のみを投入して分析

※上記の他、疾患既往歴、ソーシャルサポート、利用サービスを投入して分析

栄養改善②

栄養に係るリスクが高い(特定高齢者では基本チェックリストで栄養関連の2項目中2項目、要支援者では2項目のいずれかが該当。BMIと体重増加率の分析ではBMI18.5未満、食事摂取量の分析では不良)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○認知症の既往歴のない者及び高齢による衰弱の既往歴のない者では、改善しやすい。

- ・特定高齢者では、高齢による衰弱の既往歴のない者では、BMIの改善のオッズ比が有意に1より大。
- ・要支援者では、認知症の既往歴がない者は、基本チェックリスト(栄養関連項目)、BMI、体重増加率の改善のオッズ比が有意に1より大。

○栄養改善サービスの利用による改善のオッズに違いはなかった。

- ・特定高齢者及び要支援者において、栄養改善に係るサービスによる、有意な改善のオッズ比は算出されなかった。

	特定高齢者										要支援者								
	基本チェックリスト(栄養関連項目)				BMI(18.5未満)		体重増加率		食事摂取量		基本チェックリスト(栄養関連項目)		BMI(18.5未満)		体重増加率		食事摂取量		
	多変量補正		参考(性・年齢補正)		オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値	
	オッズ比(95%CI)	p-値	オッズ比(95%CI)	p-値															
疾患既往歴(脳血管疾患)																			
あり	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	
なし	-	-	1.35(0.21-8.92)	0.753	-	-	-	-	-	-	0.73(0.56-0.95)	0.018	-	-	-	-	-	-	
疾患既往歴(関節疾患)																			
あり	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	-	-	0.79(0.12-5.12)	0.802	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
疾患既往歴(認知症)																			
あり	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	-	-	
なし	-	-	2.29(0.13-39.95)	0.569	-	-	-	-	-	-	1.64(1.01-2.66)	0.044	2.28(1.04-4.99)	0.039	2.58(1.12-5.94)	0.026	-	-	
疾患既往歴(骨折・転倒)																			
あり	-	-	1.00	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	
なし	-	-	0.30(0.03-2.89)	0.299	3.26(0.90-11.81)	0.072	-	-	-	-	-	-	-	-	0.75(0.51-1.10)	0.136	-	-	
疾患既往歴(高齢による衰弱)																			
あり	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	
なし	-	-	1.51(0.08-28.49)	0.785	8.89(1.09-72.42)	0.041	3.72(0.77-17.95)	0.102	-	-	-	-	1.71(0.92-3.18)	0.087	-	-	-	-	
通所型介護予防事業(栄養改善)																			
非実施	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	-	-									
実施	-	-	1.40(0.47-4.17)	0.550	1.78(0.92-3.45)	0.085	1.57(0.80-3.08)	0.186	-	-									
訪問型介護予防事業(栄養改善)																			
非実施	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	-	-									
実施	-	-	0.88(0.14-5.53)	0.891	0.92(0.21-4.04)	0.913	0.88(0.22-3.51)	0.860	-	-									
介護予防通所介護(栄養改善)																			
非実施											1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
実施											0.77(0.54-1.08)	0.133	0.89(0.55-1.45)	0.648	1.01(0.60-1.70)	0.961	1.14(0.51-2.56)	0.746	
介護予防通所介護(栄養改善)																			
非実施											1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	
実施											1.25(0.81-1.92)	0.320	0.78(0.38-1.59)	0.495	0.77(0.36-1.65)	0.499	0.70(0.28-1.80)	0.464	

※ロジスティック回帰分析においては、性・年齢補正の解析で「p<0.1」であった項目のみを投入して分析

※上記の他、疾患既往歴、ソーシャルサポート、利用サービスを投入して分析

○栄養改善サービスを利用した者を対象とした、属性やサービスと栄養関連の指標の推移との関連については、栄養改善サービスの利用者が少ないことから分析ができなかった。

口腔機能の向上①

口腔機能に係るリスクが高い(基本チェックリストで口腔関連の3項目中2項目以上該当する(目的変数が基本チェックリストの改善)、または、かみしめが「片方だけできる」もしくは「どちらもできない」(目的変数がかみしめの改善))者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○基本チェックリスト得点が低い(生活機能の程度が高い)者は改善しやすい。

・要支援者では、基本チェックリスト得点が低いほど、基本チェックリスト(口腔機能関連項目)及びかみしめの改善のオッズ比が有意に1より大。

○認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。

・要支援者では、認知的活動の得点が高いほど、かみしめの改善のオッズ比が有意に1より大。

	特定高齢者						要支援者					
	基本チェックリスト(口腔機能関連項目)			かみしめ			基本チェックリスト(口腔機能関連項目)			かみしめ		
	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値
年齢												
連続変数	0.98	(0.95-1.01)	0.130	1.03	(0.99-1.07)	0.117	1.00	(0.99-1.02)	0.520	1.01	(0.99-1.03)	0.234
性別												
男性	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
女性	0.92	(0.6-1.4)	0.695	1.37	(0.79-2.37)	0.256	1.12	(0.88-1.43)	0.345	1.19	(0.9-1.58)	0.211
基本チェックリスト得点												
連続変数	0.96	(0.91-1)	0.073	1.03	(0.97-1.09)	0.399	0.96	(0.93-0.99)	0.003	0.96	(0.93-0.99)	0.004
長谷川式簡易知能評価スケール												
20点以下	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
21点以上	1.05	(0.6-1.83)	0.865	0.43	(0.22-0.86)	0.017	0.98	(0.75-1.28)	0.875	1.38	(1.02-1.86)	0.038
GDS15												
11点以上	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
10点以下	1.37	(0.72-2.61)	0.337	1.06	(0.45-2.49)	0.887	1.23	(0.92-1.64)	0.159	1.17	(0.85-1.62)	0.337
認知的活動												
14点以下	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
15-18点	0.78	(0.5-1.21)	0.265	1.40	(0.79-2.5)	0.251	1.02	(0.8-1.29)	0.906	1.31	(1-1.72)	0.048
19点以上	0.77	(0.5-1.2)	0.252	1.28	(0.73-2.27)	0.391	0.94	(0.74-1.19)	0.591	1.35	(1.02-1.79)	0.034

※上記の他、疾患既往歴、介護予防サービスを同時に投入

口腔機能の向上②

口腔機能に係るリスクが高い(基本チェックリストで口腔関連の3項目中2項目以上該当する(目的変数が基本チェックリストの改善)、または、かみしめが「片方だけできる」もしくは「どちらもできない」(目的変数がかみしめの改善))者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーションの口腔機能の向上サービスを受けている者は改善しやすい。

- ・要支援者では、介護予防通所介護及び介護予防通所リハビリテーションの口腔機能の向上サービスを実施している場合、かみしめの改善のオッズ比が有意に1より大。

		特定高齢者						要支援者					
		基本チェックリスト(口腔機能関連項目)			かみしめ			基本チェックリスト(口腔機能関連項目)			かみしめ		
		オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値
疾患既往歴(脳血管疾患)	あり	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
	なし	1.27	(0.7-2.31)	0.428	1.03	(0.44-2.42)	0.938	0.93	(0.72-1.21)	0.601	0.92	(0.68-1.25)	0.593
疾患既往歴(関節疾患)	あり	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
	なし	1.12	(0.72-1.73)	0.615	0.63	(0.36-1.11)	0.112	0.88	(0.7-1.11)	0.280	0.84	(0.65-1.1)	0.199
疾患既往歴(認知症)	あり	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
	なし	0.42	(0.12-1.5)	0.179	1.41	(0.22-9.18)	0.718	0.62	(0.35-1.1)	0.101	1.89	(0.95-3.78)	0.070
疾患既往歴(骨折・転倒)	あり	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
	なし	1.05	(0.57-1.95)	0.867	0.71	(0.33-1.51)	0.371	1.08	(0.83-1.41)	0.569	1.20	(0.9-1.6)	0.211
疾患既往歴(高齢による衰弱)	あり	1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
	なし	0.82	(0.41-1.66)	0.587	0.81	(0.36-1.79)	0.598	1.01	(0.7-1.48)	0.944	1.72	(1.08-2.73)	0.021
通所型介護予防事業 (口腔機能の向上)	なし	1.00		-	1.00		-	-		-	-		-
	あり	1.06	(0.73-1.53)	0.776	1.30	(0.78-2.17)	0.313	-		-	-		-
訪問型介護予防事業 (口腔機能の向上)	なし	1.00		-	1.00		-	-		-	-		-
	あり	0.41	(0.16-1.04)	0.060	0.67	(0.2-2.23)	0.511	-		-	-		-
介護予防通所介護 (口腔機能の向上)	なし	-		-	-		-	1.00		-	1.00		-
	あり	-		-	-		-	0.98	(0.69-1.37)	0.882	1.47	(1.01-2.16)	0.045
介護予防通所リハビリテーション (口腔機能の向上)	なし	-		-	-		-	1.00		-	1.00		-
	あり	-		-	-		-	0.98	(0.64-1.49)	0.925	1.68	(1.04-2.72)	0.034

※上記の他、年齢、性別、基本チェックリスト得点、GDS15、長谷川式簡易知能評価スケールを同時に投入

口腔機能の向上③

口腔機能の向上サービスの利用者を対象とした分析。目的変数を基本チェックリスト口腔関連3項目中2項目以上該当の有無、かみしめ、義歯・歯の汚れ(初回「中程度」「多量」への該当の有無)とした分析においては、さらに、それぞれの変数においてリスクが高い者に限定して分析。

※対象者数が少ないため、特定高齢者と要支援者の全数で分析している。

○専門職による個別的サービスの1回当たりの実施時間が10分以上30分未満の場合に維持・改善しやすい。

・専門職による個別的サービス実施時間が1回当たり10分以上30分未満の場合に、基本チェックリスト区分の維持・改善、かみしめの改善のオッズ比が有意に1より大。

	要介護度			基本チェックリスト区分			基本チェックリスト(口腔機能関連項目)			かみしめ			義歯・歯の汚れ			RSST積算時間		
	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値
1か月当たりの口腔機能向上の実施回数																		
0~1回	1.00		-				1.00		-	1.00		-	1.00		-	1.00		-
2回以上	0.98	(0.1-9.7)	0.983				2.69	(0.47-15.36)	0.265	1.13	(0.21-5.98)	0.885	1.51	(0.09-26.06)	0.776	1.16	(0.24-5.58)	0.850
専門職による実施回数																		
0~1回	1.00		-	-			1.00		-	-		-	1.00		-	1.00		-
2回以上	0.53	(0.11-2.5)	0.422				2.87	(0.74-11.2)	0.129				0.86	(0.08-9.35)	0.899	1.61	(0.37-7.08)	0.525
介護職員等による実施回数																		
0~1回	1.00		-	-			-		-	-		-	1.00		-	1.00		-
2回以上	0.63	(0.16-2.53)	0.519										3.40	(0.52-22.23)	0.202	1.28	(0.48-3.42)	0.617
専門職によるグループサービス実施時間																		
10分未満	1.00		-	-			-		-	1.00		-	-		-	-		-
10分~29分	1.64	(0.43-6.31)	0.472							0.47	(0.07-3.2)	0.440						
30分以上	1.25	(0.32-4.91)	0.745							0.56	(0.12-2.57)	0.458						
専門職による個別的サービス実施時間																		
10分未満	-		-	1.00		-	-		-	1.00		-	1.00		-	-		-
10分~29分				3.57	(1.37-9.3)	0.009				6.52	(1.03-41.37)	0.047	0.75	(0.12-4.49)	0.749			
30分以上				1.30	(0.41-4.15)	0.660				4.00	(0.6-26.88)	0.154	5.80	(0.72-46.49)	0.098			
専門職による健口体操																		
なし	-		-	-			-		-	1.00		-	-		-	-		-
あり										0.13	(0.01-2.48)	0.175						
専門職による口腔清掃の指導																		
なし	-		-	-			-		-	1.00		-	-		-	-		-
あり										0.45	(0.01-25.39)	0.699						
専門職による口腔清掃の実施																		
なし	-		-	-			1.00		-	1.00		-	-		-	-		-
あり							0.12	(0.03-0.54)	0.006	0.44	(0.08-2.58)	0.366						
専門職による構音・発声訓練																		
なし	-		-	-			-		-	-		-	-		-	1.00		-
あり																1.10	(0.4-3.01)	0.856
介護職員等による口腔清掃の実施																		
なし	1.00		-	1.00		-	-		-	-		-	1.00		-	-		-
あり	1.29	(0.37-4.49)	0.688	1.11	(0.35-3.49)	0.856							5.25	(1.17-23.53)	0.030	2.31	(0.99-5.37)	0.053
介護職員等による口腔清掃の支援																		
なし	1.00		-	-			-		-	-		-	-		-	-		-
あり	0.39	(0.1-1.55)	0.180															
介護職員等による口腔清掃の介助																		
なし	1.00		-	1.00		-	-		-	-		-	-		-	-		-
あり	0.40	(0.11-1.42)	0.154	0.12	(0.04-0.4)	<0.001												

※上記の他、年齢、性別を投入して分析

閉じこもり予防・支援①

閉じこもりに係るリスクが高い(基本チェックリストで閉じこもり関連の項目(週1回以上外出、外出回数減少)が該当する、または、日中おもに過ごす場所が「自宅敷地内」の者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○ふだんの過ごし方で役割がある者は改善しやすい。

・特定高齢者・要支援者ともに、ふだんの過ごし方で役割がある場合は、過ごす場所の改善のオッズ比が有意に1より大。

○ソーシャルサポートがある(困ったときの相談相手、体の具合が悪いとき病院に連れて行ってくれる人がいる)者は、改善しやすい。

・特定高齢者では、具合が悪いとき病院に連れて行ってくれる人がいる場合は、週1回以上外出および過ごす場所の改善のオッズ比が有意に1より大。

・要支援者では、困ったときの相談相手がいる場合は、外出回数の改善のオッズ比が有意に1より大。

	特定高齢者														要支援者																					
	基本チェックリスト(週1回以上外出)				基本チェックリスト(外出回数減少)				過ごす場所						基本チェックリスト(週1回以上外出)				基本チェックリスト(外出回数減少)				過ごす場所													
	多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2									
	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値						
ふだんの過ごし方	役割なし	1.00			1.00				1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00						
	役割あり	1.00	0.56-1.81	0.988	0.99	0.54-1.82	0.973	1.01	0.73-1.40	0.952	1.02	0.73-1.41	0.928	1.51	1.10-2.07	0.011	1.56	1.13-2.15	0.007	1.28	0.96-1.69	0.091	1.24	0.94-1.64	0.131	1.03	0.87-1.21	0.758	1.03	0.87-1.21	0.752	2.21	1.80-2.73	0.000	2.22	1.80-2.73
同居者	なし	1.00			1.00				1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			
	あり	0.74	0.34-1.63	0.458	0.71	0.30-1.65	0.423	1.00	0.67-1.49	0.988	1.00	0.67-1.50	0.999	0.81	0.56-1.18	0.279	0.83	0.57-1.20	0.323	0.83	0.69-1.25	0.628	1.09	0.83-1.43	0.548	0.87	0.72-1.05	0.138	0.89	0.75-1.06	0.179	0.80	0.64-1.01	0.065	0.82	0.66-1.02
困ったときの相談相手	なし	1.00			1.00				1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			
	あり	1.09	0.16-7.37	0.927	0.76	0.10-5.99	0.798	0.72	0.28-1.88	0.507	0.66	0.26-1.73	0.402	1.17	0.37-3.64	0.789	1.23	0.39-3.83	0.722	1.71	0.85-3.46	0.134	1.79	0.87-3.53	0.116	1.61	1.02-2.54	0.042	1.61	1.02-2.54	0.043	1.14	0.63-2.07	0.670	1.17	0.64-2.12
体の具合が悪い時の相談相手	なし	1.00			1.00				1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			
	あり	0.30	0.02-3.64	0.342	0.30	0.02-4.44	0.382	0.89	0.32-2.50	0.821	0.99	0.35-2.79	0.981	1.02	0.32-3.32	0.968	1.06	0.32-3.48	0.922	0.59	0.28-1.21	0.148	0.57	0.28-1.17	0.127	0.67	0.42-1.07	0.096	0.68	0.43-1.09	0.105	1.31	0.69-2.49	0.417	1.30	0.68-2.47
日常生活を支援してくれる人	なし	1.00			1.00				1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			
	あり	1.02	0.26-4.01	0.980	0.74	0.17-3.25	0.694	0.85	0.45-1.59	0.610	0.87	0.46-1.64	0.674	1.32	0.69-2.53	0.410	1.33	0.69-2.57	0.394	0.82	0.49-1.37	0.454	0.83	0.50-1.39	0.484	0.92	0.68-1.25	0.604	0.92	0.68-1.25	0.583	1.39	0.94-2.06	0.104	1.39	0.93-2.05
具合が悪いとき病院に連れて行ってくれる人	なし	1.00			1.00				1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			
	あり	10.40	2.02-53.59	0.005	11.49	2.04-64.62	0.006	1.34	0.60-2.99	0.475	1.41	0.63-3.17	0.403	2.74	1.08-6.96	0.034	2.47	0.97-6.32	0.058	0.86	0.50-1.45	0.561	0.90	0.53-1.52	0.693	1.09	0.80-1.50	0.573	1.10	0.80-1.51	0.550	0.81	0.54-1.20	0.285	0.81	0.54-1.20
探込んだとき身のまわりの世話をしてくれる人	なし	1.00			1.00				1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			
	あり	0.57	0.12-2.70	0.481	1.04	0.20-5.28	0.962	0.87	0.47-1.61	0.651	0.84	0.45-1.57	0.583	0.75	0.42-1.35	0.338	0.77	0.43-1.39	0.381	1.19	0.78-1.81	0.414	1.00			0.91	0.70-1.18	0.478	0.91	0.70-1.18	0.482	0.93	0.67-1.29	0.678	0.94	0.68-1.30

※上記の他、年齢、性別、基本チェックリスト得点、長谷川式簡易知能評価スケール、GDS15、認知的活動、疾患既往歴を投入して分析

※多変量1: 上記に加えて、利用している介護予防サービスを投入して分析

※多変量2: 上記に加えて、利用している介護予防サービスの内容を投入して分析

閉じこもり予防・支援②

閉じこもりに係るリスクが高い(基本チェックリストで閉じこもり関連の項目(週1回以上外出、外出回数減少)が該当する、または、日中おもに過ごす場所が「自宅敷地内」の者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○基本チェックリスト得点が低い(生活機能の程度が高い)者は改善しやすい。

・要支援者では、基本チェックリスト得点が高い場合に、外出回数および過ごす場所の改善のオッズ比が有意に1未満。

○認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。

・特定高齢者では、認知的活動の得点が高いほど、週1回以上外出の改善のオッズ比が有意に1より大。

	特定高齢者														要支援者																								
	基本チェックリスト(週1回以上外出)						基本チェックリスト(外出回数減少)						過ごす場所						基本チェックリスト(週1回以上外出)						基本チェックリスト(外出回数減少)						過ごす場所								
	多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2		多変量1		多変量2												
	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値									
基本チェックリスト得点	1.05	0.97-1.14	0.212	1.05	0.97-1.13	0.263	0.99	0.94-1.03	0.533	0.99	0.94-1.03	0.540	1.02	0.98-1.07	0.327	1.02	0.98-1.07	0.354	0.98	0.95-1.01	0.252	0.98	0.94-1.01	0.166	0.96	0.94-0.98	0.000	0.96	0.94-0.98	0.000	0.95	0.92-0.98	0.000	0.95	0.92-0.97	0.000			
長谷川式簡易知能評価スケール																																							
20点以下	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
21点以上	1.06	0.50-2.25	0.879	1.15	0.52-2.53	0.727	1.17	0.74-1.83	0.507	1.16	0.74-1.84	0.517	1.52	0.91-2.53	0.108	1.52	0.91-2.54	0.112	0.91	0.68-1.23	0.554	0.91	0.68-1.23	0.552	0.95	0.78-1.16	0.601	0.95	0.78-1.16	0.607	1.16	0.89-1.51	0.279	1.17	0.89-1.52	0.261			
GDS15																																							
11点以上	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
10点以下	1.68	0.61-4.59	0.315	1.50	0.51-4.44	0.463	1.66	0.93-2.94	0.085	1.73	0.97-3.09	0.066	1.25	0.65-2.43	0.507	1.25	0.64-2.43	0.515	1.08	0.72-1.62	0.716	1.12	0.75-1.68	0.583	1.17	0.92-1.51	0.206	1.19	0.92-1.53	0.178	1.12	0.77-1.62	0.563	1.12	0.77-1.63	0.552			
認知的活動																																							
14点以下	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
15-18点	1.13	0.60-2.14	0.707	1.20	0.62-2.35	0.586	0.85	0.57-1.27	0.436	0.89	0.60-1.34	0.582	1.07	0.71-1.62	0.735	1.07	0.71-1.61	0.755	1.38	1.03-1.84	0.030	1.37	1.03-1.82	0.032	1.02	0.85-1.22	0.873	1.01	0.84-1.22	0.886	0.83	0.65-1.05	0.126	0.82	0.65-1.05	0.115			
19点以上	3.07	1.46-6.44	0.003	3.12	1.44-6.78	0.004	0.81	0.55-1.19	0.281	0.82	0.55-1.21	0.312	1.33	0.90-1.92	0.149	1.30	0.88-1.92	0.188	1.24	0.92-1.67	0.163	1.23	0.92-1.66	0.166	0.86	0.72-1.03	0.106	0.86	0.71-1.03	0.096	0.94	0.75-1.19	0.627	0.94	0.74-1.18	0.584			
疾患既往歴(脳血管疾患)																																							
あり	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
なし	0.84	0.38-1.96	0.693	0.81	0.34-1.96	0.641	0.80	0.49-1.32	0.385	0.78	0.47-1.30	0.343	1.16	0.69-1.95	0.573	1.24	0.73-2.11	0.419	0.88	0.63-1.24	0.462	0.88	0.63-1.23	0.455	0.93	0.76-1.15	0.523	0.94	0.76-1.16	0.567	0.89	0.68-1.17	0.413	0.91	0.69-1.19	0.470			
疾患既往歴(関節疾患)																																							
あり	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
なし	1.32	0.70-2.48	0.389	1.30	0.68-2.58	0.405	0.84	0.59-1.20	0.342	0.88	0.61-1.28	0.505	0.99	0.69-1.41	0.935	1.05	0.73-1.51	0.796	1.20	0.90-1.60	0.210	1.16	0.87-1.55	0.299	0.84	0.70-1.00	0.056	0.84	0.70-1.00	0.049	0.72	0.57-0.89	0.003	0.71	0.57-0.89	0.003			
疾患既往歴(認知症)																																							
あり	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
なし	0.56	0.14-2.30	0.422	0.44	0.10-1.92	0.275	0.88	0.39-1.97	0.754	0.84	0.38-1.89	0.680	2.88	0.85-9.72	0.088	2.95	0.87-9.90	0.081	1.41	0.82-2.40	0.213	1.41	0.82-2.41	0.210	0.91	0.62-1.32	0.608	0.91	0.62-1.33	0.632	1.00	0.62-1.61	0.999	0.99	0.61-1.59	0.960			
疾患既往歴(骨折・転倒)																																							
あり	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
なし	1.85	0.77-4.42	0.167	1.64	0.66-4.10	0.286	0.80	0.51-1.28	0.356	0.78	0.48-1.25	0.297	1.20	0.73-1.96	0.468	1.30	0.79-2.15	0.298	0.87	0.64-1.18	0.371	0.86	0.63-1.16	0.308	1.01	0.83-1.22	0.943	1.00	0.83-1.21	0.992	0.86	0.67-1.11	0.247	0.86	0.67-1.10	0.225			
疾患既往歴(高齢による衰弱)																																							
あり	1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00			1.00		
なし	1.33	0.44-4.01	0.615	1.81	0.57-5.74	0.313	0.97	0.56-1.70	0.928	1.00	0.56-1.77	0.997	1.77	0.90-3.47	0.097	1.90	0.96-3.75	0.065	0.65	0.41-1.04	0.071	0.64	0.41-1.02	0.059	1.11	0.83-1.47	0.475	1.11	0.84-1.48	0.461	0.73	0.52-1.02	0.068	0.73	0.52-1.02	0.068			

※上記の他、年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、ソーシャルサポートを投入して分析

※多変量1: 上記に加えて、利用している介護予防サービスを投入して分析

※多変量2: 上記に加えて、利用している介護予防サービスの内容を投入して分析

閉じこもり予防・支援③

閉じこもりに係るリスクが高い(基本チェックリストで閉じこもり関連の項目(週1回以上外出、外出回数減少)が該当する、または、日中おもに過ごす場所が「自宅敷地内」の者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○通所サービスを受けている者は、改善しやすい。

○特に、運動器の機能向上サービスやアクティビティサービスを受けている者は、改善しやすい。

- ・特定高齢者では、通所型介護予防事業(運動器の機能向上サービス)を実施している場合に、週1回以上外出の改善のオッズ比が有意に1より大。
- ・要支援者では、介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーションを実施している場合に、週1回以上外出および外出回数の改善のオッズ比が有意に1より大。特に、運動器の機能向上サービスを実施している場合に週1回以上外出、外出回数および過ごす場所の改善のオッズ比が有意に1より大。また、介護予防通所介護(アクティビティ)を実施している場合に週1回以上外出、過ごす場所の改善のオッズ比が有意に1より大。

○訪問サービスを受けている者は、改善しにくい傾向があるが、生活機能等の状態が悪いため、訪問サービスしか受けられないという可能性があり、今後、さらなる検討が必要。

- ・特定高齢者では、訪問型介護予防事業を実施している場合は、外出回数の改善のオッズ比が有意に1未満。
- ・要支援者では、介護予防訪問介護を実施している場合に、週1回以上外出の改善のオッズ比が有意に1未満

	特定高齢者									
	基本チェックリスト (週1回以上外出)			基本チェックリスト (外出回数減少)			過ごす場所			
	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	
通所型介護予防事業										
非実施	1.00			1.00			1.00			
実施	1.18	0.22-6.21	0.846	1.36	0.49-3.76	0.553	1.03	0.41-2.55	0.957	
訪問型介護予防事業										
非実施	1.00			1.00			1.00			
実施	0.41	0.15-1.11	0.080	0.39	0.20-0.77	0.007	0.88	0.46-1.69	0.704	
通所型介護予防事業 (運動器の機能向上)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	4.00	1.22-13.13	0.022	1.15	0.63-2.08	0.651	1.48	0.88-2.50	0.141	
通所型介護予防事業 (栄養改善)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	0.74	0.24-2.32	0.607	0.58	0.32-1.05	0.071	0.71	0.42-1.20	0.206	
通所型介護予防事業 (口腔機能の向上)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	2.47	0.86-7.09	0.094	1.55	0.89-2.69	0.119	1.01	0.63-1.61	0.976	
訪問型介護予防事業 (運動器の機能向上)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	0.22	0.06-0.79	0.020	0.43	0.18-1.01	0.052	0.59	0.26-1.35	0.214	
訪問型介護予防事業 (栄養改善)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	-	-	-	1.27	0.21-7.57	0.793	0.58	0.10-3.56	0.560	
訪問型介護予防事業 (口腔機能の向上)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	-	-	-	0.11	0.01-0.92	0.042	2.11	0.77-5.82	0.148	
訪問型介護予防事業 (閉じこもり予防・支援)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	1.79	0.01-215.82	0.812	0.26	0.05-1.41	0.118	0.86	0.15-5.12	0.872	
訪問型介護予防事業 (認知症予防・支援)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	0.72	0.01-76.54	0.889	9.89	0.36-270.66	0.175	0.55	0.76-4.07	0.562	
訪問型介護予防事業 (うつ予防・支援)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	-	-	-	3.14	0.50-19.53	0.220	2.48	0.48-12.90	0.280	

	要支援者									
	基本チェックリスト (週1回以上外出)			基本チェックリスト (外出回数減少)			過ごす場所			
	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	オッズ比	(95%CI)	p-値	
介護予防通所介護										
非実施	1.00			1.00			1.00			
実施	2.46	1.82-3.32	0.000	1.03	0.85-1.25	0.740	1.15	0.89-1.48	0.277	
介護予防通所リハビリテーション										
非実施	1.00			1.00			1.00			
実施	2.68	1.91-3.78	0.000	1.26	1.02-1.56	0.031	1.27	0.97-1.67	0.080	
介護予防訪問介護										
非実施	1.00			1.00			1.00			
実施	0.66	0.48-0.91	0.011	0.94	0.77-1.15	0.548	0.91	0.70-1.18	0.489	
介護予防通所介護 (運動器の機能向上)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	2.58	1.87-3.56	0.000	1.08	0.88-1.31	0.465	1.29	1.01-1.65	0.042	
介護予防通所介護 (栄養改善)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	0.52	0.19-1.38	0.188	0.54	0.25-1.15	0.111	0.49	0.19-1.25	0.134	
介護予防通所介護 (口腔機能の向上)										
あり	1.00			1.00			1.00			
あり	1.23	0.47-3.17	0.675	1.63	0.78-3.40	0.193	1.17	0.48-2.83	0.728	
介護予防通所介護 (アクティビティ)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	3.02	2.09-4.37	0.000	1.09	0.88-1.36	0.432	1.40	1.06-1.85	0.016	
介護予防通所リハビリテーション (運動器の機能向上)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	3.34	2.34-4.76	0.000	1.30	1.06-1.60	0.012	1.39	1.08-1.80	0.012	
介護予防通所リハビリテーション (栄養改善)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	0.18	0.02-1.70	0.135	0.75	0.35-1.61	0.455	1.05	0.40-2.74	0.923	
介護予防通所リハビリテーション (口腔機能の向上)										
なし	1.00			1.00			1.00			
あり	7.24	0.79-66.48	0.080	1.42	0.66-3.05	0.370	1.24	0.47-3.28	0.671	

※上記の他、年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、基本チェックリスト得点、長谷川式簡易知能評価スケール、GDS15、認知的活動、疾患既往歴、ソーシャルサポートを投入して分析

認知症予防・支援①

認知症に係るリスクが高い(基本チェックリストで認知症関連の3項目のいずれかが該当する、または長谷川式知能評価スケールが20点以下)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析、および日常生活自立度の維持・改善の分析

○年齢は、若年であるほど改善しやすい。

・特定高齢者・要支援者ともに、年齢が低いほど認知症高齢者の日常生活自立度の維持・改善のオッズ比が有意に1より大。

○独居者は改善しやすい。

・要支援者では、同居者がいない場合に基本チェックリスト(認知症関連項目)の改善のオッズ比が有意に1より大。

○基本チェックリスト得点が高い(生活機能の程度が高い)者は改善しやすい。

・特定高齢者では、基本チェックリスト得点が高い方が基本チェックリスト(認知症関連項目)の改善、認知症高齢者の日常生活自立度の維持・改善のオッズ比が有意に1未満。

○認知機能が低下していない者は改善しやすい。

・要支援者では、長谷川式簡易知能評価スケールが20点以下(認知症疑い)の場合に基本チェックリスト(認知症関連項目)の改善のオッズ比が有意に1より大。

○認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。

・特定高齢者では、認知的活動の得点が高いほど、認知症高齢者の日常生活自立度の維持・改善のオッズ比が有意に1未満。

・要支援者では、認知的活動の得点が高いほど、基本チェックリスト(認知症関連項目)および長谷川式簡易知能評価スケールの改善のオッズ比が有意に1未満。

	特定高齢者						要支援者					
	認知症高齢者の日常生活自立度		基本チェックリスト(認知症関連項目)		長谷川式簡易知能評価スケール		認知症高齢者の日常生活自立度		基本チェックリスト(認知症関連項目)		長谷川式簡易知能評価スケール	
	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値
年齢	0.95(0.93-0.98)	0.00	1.00(0.96-1.04)	0.97	0.97(0.92-1.03)	0.34	0.97(0.96-0.98)	0.00	0.99(0.97-1.01)	0.27	0.99(0.97-1.01)	0.32
性別												
男性	1.10(0.76-1.59)	0.61	0.98(0.57-1.68)	0.93	1.76(0.86-3.58)	0.12	1.00(0.85-1.18)	0.99	1.18(0.90-1.56)	0.24	1.19(0.89-1.61)	0.24
女性	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
同居者												
なし	0.89(0.60-1.32)	0.57	1.26(0.64-2.48)	0.51	0.58(0.24-1.42)	0.23	1.08(0.91-1.27)	0.39	1.43(1.05-1.96)	0.02	1.11(0.80-1.56)	0.55
あり	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
普段の過ごし方(役割)												
なし	1.27(0.92-1.77)	0.15	1.22(0.73-2.04)	0.45	0.89(0.44-1.79)	0.74	0.87(0.75-1.02)	0.09	0.98(0.74-1.32)	0.93	0.76(0.55-1.05)	0.10
あり	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
基本チェックリスト得点	0.95(0.91-0.99)	0.01	0.92(0.85-0.98)	0.01	0.93(0.85-1.02)	0.12	1.00(0.99-1.02)	0.59	0.98(0.95-1.02)	0.30	1.01(0.97-1.04)	0.68
長谷川式簡易知能評価スケール												
20点以下	0.67(0.44-1.02)	0.06	0.65(0.37-1.15)	0.14			0.86(0.74-1.03)	0.10	0.55(0.42-0.71)	0.00		
21点以上	1.00		1.00				1.00		1.00			
GDS15												
11点以上	1.36(0.67-2.80)	0.39	0.40(0.16-0.98)	0.04	0.94(0.30-2.97)	0.91	0.96(0.76-1.23)	0.78	1.07(0.75-1.54)	0.71	1.12(0.74-1.70)	0.61
10点以下	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
認知的活動												
14点以下	0.64(0.43-0.94)	0.02	0.46(0.36-1.16)	0.14	1.42(0.64-3.15)	0.39	0.88(0.75-1.05)	0.15	0.71(0.52-0.97)	0.03	0.64(0.45-0.92)	0.02
15-18点	0.67(0.46-0.97)	0.04	1.08(0.58-1.99)	0.82	0.83(0.36-1.98)	0.69	0.98(0.81-1.17)	0.79	0.98(0.69-1.40)	0.94	0.92(0.61-1.37)	0.67
19点以上	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
疾患既往歴(脳血管疾患)												
あり	1.00(0.60-1.68)	1.00	1.54(0.70-3.39)	0.28	1.23(0.47-3.19)	0.68	0.83(0.69-1.00)	0.05	1.26(0.93-1.70)	0.14	0.91(0.64-1.29)	0.62
なし	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
疾患既往歴(関節疾患)												
あり	1.17(0.80-1.73)	0.42	0.82(0.44-1.53)	0.53	1.87(0.82-4.26)	0.14	1.00(0.85-1.18)	0.98	1.23(0.91-1.67)	0.18	1.45(1.04-2.01)	0.03
なし	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
疾患既往歴(認知症)												
あり	0.95(0.45-2.00)	0.89	0.41(0.17-0.98)	0.04	0.11(0.03-0.40)	0.00	1.63(1.16-2.30)	0.01	0.67(0.44-1.01)	0.06	0.36(0.23-0.56)	0.00
なし	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
疾患既往歴(骨折・転倒)												
あり	1.07(0.64-1.78)	0.81	0.92(0.35-2.37)	0.86	1.56(0.38-6.35)	0.53	0.96(0.81-1.16)	0.73	1.02(0.74-1.41)	0.90	1.47(1.02-2.11)	0.04
なし	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
疾患既往歴(高齢による衰弱)												
あり	1.53(0.81-2.91)	0.19	2.63(0.95-7.30)	0.06	3.45(0.92-12.98)	0.07	0.82(0.65-1.04)	0.10	1.15(0.77-1.73)	0.49	0.84(0.53-1.35)	0.48
なし	1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	

※上記の他、ソーシャルサポート、介護予防サービスを投入して分析

認知症予防・支援②

認知症に係るリスクが高い(基本チェックリストで認知症関連の3項目のいずれかが該当する、または長谷川式知能評価スケールが20点以下)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析、および日常生活自立度の維持・改善の分析

○運動器の機能向上サービスおよび口腔機能の向上サービスを受けている者は、改善しやすい。

・特定高齢者では、運動器の機能向上サービスおよび口腔機能の向上サービスを実施している場合は、基本チェックリスト(認知症関連3項目)の改善のオッズ比が有意に1より大。

	特定高齢者						要支援者					
	認知症高齢者の日常生活自立度		基本チェックリスト(認知症関連項目)		長谷川式簡易知能評価スケール		認知症高齢者の日常生活自立度		基本チェックリスト(認知症関連項目)		長谷川式簡易知能評価スケール	
	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値	オッズ比(95%CI)	p値
通所型介護予防事業												
非実施	1.00		1.00				—		—		—	
実施	2.56(0.98-6.67)	0.05	1.92(0.39-10.00)	0.42								
訪問型介護予防事業												
非実施	1.00		1.00		1.00		—		—		—	
実施	1.89(0.85-4.17)	0.12	0.81(0.26-2.50)	0.72	0.20(0.05-0.76)	0.02						
運動器の機能向上												
非実施	1.00		1.00		1.00		—		—		—	
実施	0.93(0.56-1.56)	0.8	3.45(1.25-9.09)	0.02	4.17(0.91-20.00)	0.07						
栄養改善												
非実施	1.00		1.00		1.00		—		—		—	
実施	0.56(0.34-0.91)	0.02	0.35(0.13-1.00)	0.05	2.59(0.64-11.11)	0.18						
口腔機能の向上												
非実施	1.00		1.00		1.00		—		—		—	
実施	0.93(0.61-1.59)	0.94	2.86(1.02-7.69)	0.05	0.70(0.18-2.70)	0.6						
認知症予防・支援												
非実施	1.00				1.00		—		—		—	
実施	4.35(0.57-33.33)	0.16			0.26(0.03-2.04)	0.2						
介護予防通所介護												
非実施	—		—		—		1.00		1.00		1.00	
実施							0.90(0.75-1.08)	0.26	0.94(0.67-1.32)	0.73	0.95(0.67-1.35)	0.77
介護予防通所リハビリテーション												
非実施	—		—		—		1.00		1.00		1.00	
実施							0.82(0.67-0.99)	0.04	0.88(0.62-1.28)	0.52	1.00(0.68-1.47)	0.99
介護予防訪問介護												
非実施	—		—		—		1.00		1.00	0.56	1.00	
実施							0.93(0.77-1.12)	0.43	1.11(0.79-1.56)		1.16(0.80-1.67)	0.43

※年齢、性別、同居者、ふだんの過ごし方、疾患既往歴、基本チェックリスト得点、GDS15、長谷川式簡易知能評価スケール、認知的活動、ソーシャルサポートを投入して分析

うつ予防・支援①

うつに係るリスクが高い(基本チェックリストでうつ関連の5項目中2項目以上該当する、GDS15スコアで11点以上である)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析

○ふだんの過ごし方で役割がある者は、改善しやすい。

・要支援者では、ふだんの生活で役割がある場合は、基本チェックリスト(うつ関連項目)の改善のオッズ比が有意に1より大。

○ソーシャルサポートがある(日常生活を支援してくれる人、具合が悪いときに病院に連れて行ってくれる人がいる)者は、改善しやすい。

・特定高齢者では、具合が悪いときに病院に連れて行ってくれる人がいる場合に、基本チェックリスト(うつ関連項目)およびGDS15の改善のオッズ比が有意に1より大。

・要支援者では、日常生活を支援してくれる人がいる場合に、基本チェックリスト(うつ関連項目)の改善のオッズ比が有意に1より大。

	特定高齢者				要支援者			
	基本チェックリスト (うつ関連項目)		GDS15		基本チェックリスト (うつ関連項目)		GDS15	
	オッズ比 (95% CI)	p-値	オッズ比 (95% CI)	p-値	オッズ比 (95% CI)	p-値	オッズ比 (95% CI)	p-値
ふだんの過ごし方(役割)	1.19(0.84-1.70)	0.332	0.51(0.16-1.64)	0.257	1.24(1.02-1.51)	0.034	0.89(0.55-1.44)	0.628
同居者	0.86(0.57-1.29)	0.473	0.61(0.21-1.81)	0.372	0.87(0.71-1.07)	0.189	0.76(0.49-1.18)	0.22
困った時の相談相手	1.68(0.46-6.15)	0.437	3.97(0.47-33.72)	0.207	1.03(0.66-1.60)	0.899	1.11(0.54-2.27)	0.779
身体の具合が悪いときの相談相手	0.97(0.31-2.99)	0.957	5.59(0.65-48.19)	0.117	1.03(0.63-1.68)	0.900	0.50(0.23-1.11)	0.089
日常生活を支援してくれる人	1.18(0.60-2.31)	0.627	0.75(0.15-3.85)	0.732	1.53(1.09-2.16)	0.014	1.34(0.70-2.58)	0.372
具合が悪いときに病院に連れて行ってくれる人	2.48(1.05-5.87)	0.039	7.95(1.10-57.63)	0.040	1.23(0.86-1.77)	0.250	0.55(0.30-1.04)	0.067
寝込んだときに身のまわりの世話をしてくれる人	0.69(0.36-1.33)	0.268	0.50(0.11-2.19)	0.354	1.11(0.83-1.48)	0.483	0.97(0.56-1.70)	0.922

※上記の他、年齢、性別、要介護度、基本チェックリスト得点、GDS15を同時に投入

うつ予防・支援②

うつに係るリスクが高い(基本チェックリストでうつ関連の5項目中2項目以上該当する、GDS15スコアで11点以上である)者を対象とした特定高齢者・要支援者別の分析。なお、基本チェックリストでの分析対象者とGDS15での分析対象者は大きく異なる。

○運動器の機能向上サービスを受けている者は、GDS15スコアが改善しやすい。

○特に、うつの程度が軽度の者は、運動器の機能向上サービスの実施により改善しやすい。

- ・要支援者では、運動器の機能向上サービスを実施している場合は、GDS15スコアの改善のオッズ比が有意に1より大。
- ・特に、GDS15スコアが11点の者が運動器の機能向上サービスを実施している場合、GDS15スコアの改善のオッズ比が有意に1より大。

※一部のサービスで、基本チェックリストとGDS15スコアで結果が異なっているが、両指標の分析対象者が大きく異なっていることによるものと考えられる。

	特定高齢者				要支援者			
	基本チェックリスト (うつ関連項目)		GDS15		基本チェックリスト (うつ関連項目)		GDS15	
	オッズ比 (95% CI)	p-値	オッズ比 (95% CI)	p-値	オッズ比 (95% CI)	p-値	オッズ比 (95% CI)	p-値
通所型介護予防事業	0.50(0.29-0.86)	0.013	0.91(0.32-2.63)	0.861	—	—	—	—
訪問型介護予防事業	0.74(0.37-1.48)	0.390	1.00(0.19-5.39)	0.998	—	—	—	—
介護予防通所介護	—	—	—	—	0.95(0.76-1.18)	0.629	1.40(0.89-2.19)	0.147
介護予防通所リハビリテーション	—	—	—	—	0.83(0.65-1.07)	0.159	1.28(0.76-2.15)	0.348
介護予防訪問介護	—	—	—	—	0.88(0.71-1.09)	0.252	0.78(0.51-1.20)	0.251
運動器の機能向上	1.30(0.73-2.31)	0.379	0.75 (0.23 - 2.49)	0.64	0.93(0.76-1.13)	0.441	1.83(1.20-2.78)	0.005
栄養改善	0.63(0.38-1.05)	0.077	0.81 (0.31 - 2.53)	0.729	0.96(0.45-2.05)	0.916	3.05(0.62-15.04)	0.171
口腔機能の向上	1.32(0.82-2.15)	0.254	1.34 (0.42 - 4.28)	0.626	0.85(0.40-1.79)	0.667	0.52(0.12-2.30)	0.385
うつ予防・支援	1.52(0.44-5.22)	0.504	2.71(0.23-31.56)	0.427	—	—	—	—
アクティビティ	—	—	—	—	1.23(0.97-1.55)	0.085	1.21(0.73-2.00)	0.469

	要支援											
	GDS15;11点(軽度)						GDS15;12点以上					
	サービス利用				オッズ比 (95% CI)	P-値	サービス利用				オッズ比 (95% CI)	P-値
あり	改善(%)	なし	改善(%)	あり			改善(%)	なし	改善(%)			
運動器の機能向上	75	68.0	101	48.1	2.59(1.30-5.14)	0.007	100	44	190	38.4	1.52(0.88-2.63)	0.136
栄養改善	27	59.3	149	56.4	8.01(0.69-93.15)	0.096	34	50	256	39.1	0.95(0.07-12.79)	0.971
口腔機能の向上	30	53.3	146	57.5	0.16(0.02-1.60)	0.119	37	51.4	253	38.7	1.87(0.16-21.94)	0.618
アクティビティ	38	55.3	138	57.2	1.11(0.47-2.64)	0.806	67	46.3	223	38.6	1.34(0.71-2.52)	0.367

※上記の他、年齢、性別、要介護度、基本チェックリスト得点、GDS15を同時に投入

まとめ ①

◎属性・介護予防サービス利用と介護予防に係る各種指標の推移との関連の分析について、ロジスティック回帰分析によって分析を行ったところ、主な結果は、以下のとおりであった。ただし、今回分析を行ったデータは、保健医療技術を評価するための最も妥当な方法であるランダム化比較試験(RCT)ではなく、前向きコホート研究のデータであり、結果の解釈に当たっては、慎重でなければならない。

1. 全体分析

- ふだんの過ごし方で役割がある者は維持・改善しやすい。
- 認知機能が高い者は、維持・改善しやすい。
- 認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は、維持・改善しやすい。

2. 運動器の機能向上

- ふだんの過ごし方で役割のある者は改善しやすい。
- 基本チェックリスト得点が低い(生活機能の程度が高い)ほど改善しやすい。
- 認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。
- 要支援者に対する介護予防通所介護(運動器の機能向上サービス)の実施者は改善しやすい。
- 実施回数が一定の回数以上の場合で維持・改善しやすい。
- 1回の実施時間が一定時間以上の場合で維持・改善しやすい。
- 属性とサービスとの関係は、以下のとおりとなった。
 - ・脳血管疾患の既往がない者では、マシンによる筋力増強訓練で維持・改善しやすい。
 - ・認知症の既往がない者では、日常生活動作に関わる訓練で維持・改善しやすい。
 - ・認知機能が低下していない者では、マシンによらない筋力増強訓練が維持・改善しやすい。
 - ・認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)では、日常生活動作に関する訓練及びレクリエーション・ゲームで維持・改善しやすい。
 - ・要支援者よりも特定高齢者の方が、すべての内容で維持・改善しやすい。

3. 栄養改善

- 認知症の既往歴のない者及び高齢による衰弱の既往歴のない者では、改善しやすい。
- 栄養改善サービスの利用による改善のオッズに違いはなかった。
- 栄養改善サービスを利用した者を対象とした、属性やサービスと栄養関連の指標の推移との関連については、栄養改善サービスの利用者が少ないことから分析ができなかった。

まとめ ②

4. 口腔機能の向上

- 基本チェックリスト得点が低い(生活機能の程度が高い)者は改善しやすい。
- 認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。
- 介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーションの口腔機能の向上サービスの実施者は改善しやすい。
- 専門職による個別的サービスの1回当たりの実施時間が10分以上30分未満の場合に維持・改善しやすい。

5. 閉じこもり予防・支援

- ふだんの過ごし方で役割がある者は改善しやすい。
- ソーシャルサポートがある(困ったときの相談相手、体の具合が悪いとき病院に連れて行ってくれる人がいる)者は、改善しやすい。
- 基本チェックリスト得点が低い(生活機能の程度が高い)者は改善しやすい。
- 認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。
- 通所サービスを受けている者は、改善しやすい。特に、運動器の機能向上サービスやアクティビティサービスを受けている者は、改善しやすい。

6. 認知症予防・支援

- 基本チェックリスト得点が低い(生活機能の程度が高い)者は改善しやすい。
- 認知機能が低下していない者は改善しやすい。
- 認知的活動の得点が高い者(認知的活動が活発な者)は改善しやすい。
- 運動器の機能向上サービスおよび口腔機能の向上サービスを受けている者は、改善しやすい。

7. うつ予防・支援

- ふだんの過ごし方で役割がある者は改善しやすい。
- ソーシャルサポートがある(日常生活を支援してくれる人、具合が悪いときに病院に連れて行ってくれる人がいる)者は、改善しやすい。
- 運動器の機能向上サービスを受けている者は、GDS15スコアが改善しやすい。特に、うつの程度が軽度の者は、改善しやすい。